

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター

活動レポート2018-2019



【ロゴの紹介】

この「ESDロゴマーク」は、青色に「学び」、黄色に「活動」、森や自然を想起する緑色に「持続可能な社会」の意味を持たせています。

青色と黄色を混ぜると緑色が生じるという「色の原理」と、ESDの文字の形で表現された卵から雛が生まれるイメージから、「人びとの学びと活動によって持続可能な社会を生み出し、育てる」というESDの考え方を表しています。

*上記「ESDロゴマーク」は、環境大臣によって商標登録されています。



ESDはEducation for Sustainable Development の頭文字。
持続可能な開発のための教育と訳され
全国各地の学校で、地域で、取り組まれています。
ESDはSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けての人づくりです。

2018(平成30)年度環境省請負業務

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター 活動レポート2018-2019

発行日 2019(平成31)年3月
制作 ESD活動支援センター



2018年度の活動を振り返って

～ ESD 推進ネットワークの本格的な稼働の開始 ～

日本の提案により開始された「国連ESDの10年」が2014年に終了した後、世界の国々は、ESDの次のステージとして2014年12月に「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の世界的な推進に合意しました。我が国は、これを受け、ESDに関わるマルチステークホルダーが、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進することを目的としてESD推進ネットワークの構築に取り組みました。

ESD推進ネットワークは、地域におけるESD活動の推進・支援窓口となる「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」、広域的なハブ機能を果たすため、広域ブロックにおけるESD活動の支援や地域ESD拠点と協働・連携した活動等を行う「地方ESD活動支援センター(地方センター)」、ESD推進ネットワークの全国的なハブ機能を果たす「ESD活動支援センター(全国センター)」等により構成されます。2016年4月に文部科学省と環境省による官民協働の仕組みとして全国センターがスタートしました。さらに、2017年7～9月にかけて全国8ブロックで地方センターが開設され、同年11月からは地域ESD拠点の登録も開始されました。

本報告書は、3年目を迎えた全国センターの、2018年度の活動記録を取りまとめたものです。この1年間でESD推進ネットワークの構築に向けて着実な進展が得られました。2017年度末には27であった地域ESD拠点は、2019年2月末現在72に増加し、地方センター、全国センターの支援を得て活発な活動が展開されつつあります。全国センターは、地方センターと緊密な連携をとりつつ、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けたESDの推進、各種調査等を通じたネットワークの可視化、全国規模の学び合いの場であるESD推進ネットワーク全国フォーラムの開催等を行いました。また、ESD関連カレンダーの開設等によりESD関連情報の速やかな発信に努めるとともに、Facebook、Twitterを活用した情報発信により、大幅な情報発信能力の強化を図りました。

皆様のお力添えを得ながら、これからもESD推進ネットワークの構築・推進に邁進していく所存ですので、引き続きのご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

ESD活動支援センター
センター長 阿部 治

目次

2018年度の活動を振り返って……………	2	ウェブサイトで発信中……………	14
ESD推進ネットワーク形成の進展……………	3	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018……………	16
ESD推進ネットワークとは……………	4	消費者教育セミナー・国際セミナー……………	28
地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)……………	6	海外通信員レポート……………	29
ESD活動支援センター(全国センター)の役割……………	8	後援事業・協力事業……………	30
ESD推進ネットワークの可視化と協力団体……………	10	メディア等掲載……………	34
相談窓口……………	12	ESD活動支援センター(全国・地方)連絡先……………	35

本レポートの内容は、原則2019年2月末現在の情報に基づいています。ただしイベント等で示される肩書きは開催当時のものです。レポート中、「特定非営利活動法人」は「NPO法人」または「NPO」と略記しています。数字の処理上、円グラフの合計が100%にならない場合があります。

ESD推進ネットワーク形成の進展



*持続可能な開発のための教育関係省庁連絡会議:ESDにかかわる施策の実施について、関係行政機関相互間の密接な連携を図り、総合的かつ効果的な推進を図るために開催。2019年2月末現在、12省庁が参画:文部科学省、環境省、内閣官房、内閣府、消費者庁、総務省、外務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、法務省、厚生労働省

ESD推進ネットワークとは

ESD推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様な主体が、分野横断的に、協働・連携してESDを推進することを目的としています。

ESDを広げ、深めることを通じて、地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs達成に向けての人づくりを行います。

持続可能な社会を目指して



持続可能な開発目標 (SDGs)

● 地域ESD活動推進拠点 (地域ESD拠点)

地方ESD活動支援センター (地方センター) のパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することでESD推進ネットワークの中で中核的な役割を果たす、地域におけるESD活動の支援窓口です。
先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、ESD活動を支援している組織・団体に地域ESD拠点として登録していただき、学校教育や社会教育の現場で、地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組む様々な主体の活動を支援・推進していただくことが期待されています。

● 地方ESD活動支援センター (地方センター)

全国8ブロックに開設され、ESD活動支援センター (全国センター) や地方自治体、地域ESD拠点等との連携の下に、主に以下の機能を果たすことで、ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。
① ESD活動を支援する情報共有機能
② 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
③ ESD活動のネットワーク形成機能
④ 人材育成機能、等
各地方センターにも指導・助言機関が設けられています。

● ESD活動支援センター (全国センター)

ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行います。地域ESD拠点、地方センターやESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。

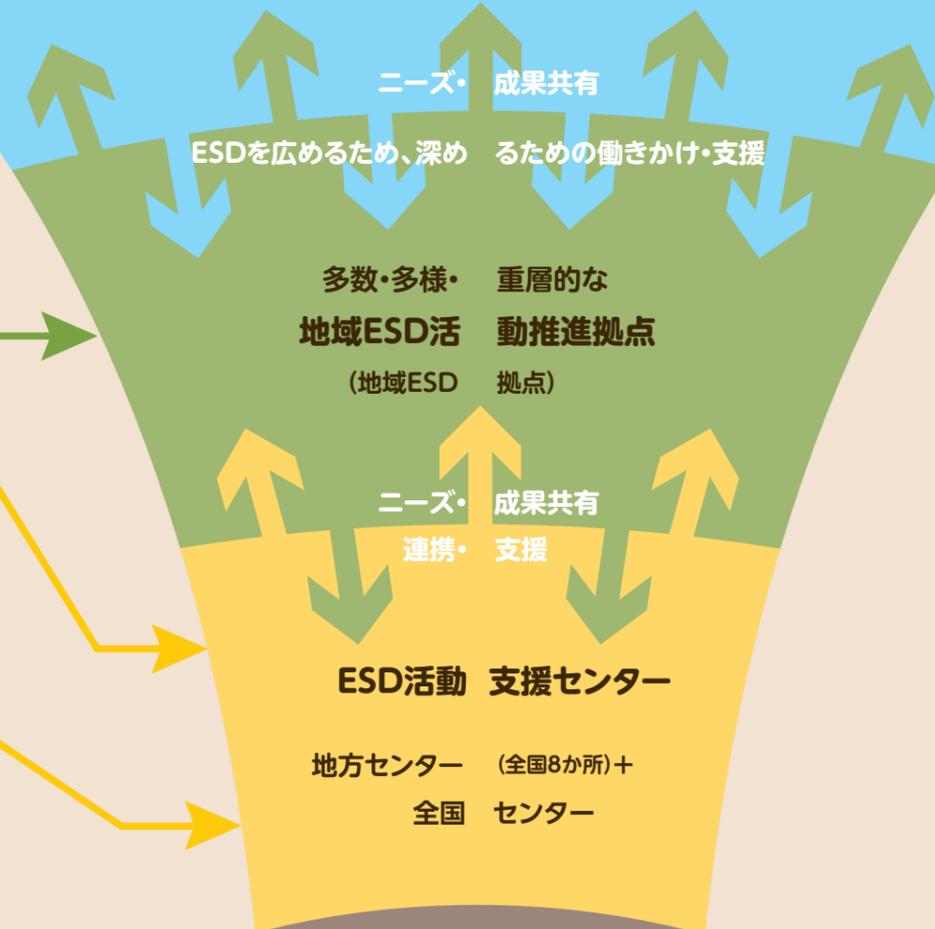
● ESD活動支援企画運営委員会

ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向の議論、地域の実情を踏まえた総合的なESD活動支援方策の検討、全国センターへの指導・助言を行います。

● 協力団体

ESD推進に取り組む全国規模のネットワーク組織・団体です。

学校、地域、職場などで
ESDに取り組んでいる多様な実践主体
(ESD活動の現場)
ESDに取り組もうとしている多様な主体
(潜在的な活動主体)



● SDGs: 持続可能な開発目標

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この中で、発展途上国・先進国共に取り組む2016年から2030年までの国際的な目標として、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」が示されています。

● SDGsとESD

ESDは、「SDGs4: 教育」の第7項目 (SDGs4.7) に記載されています。ここには、ESD等を通じて全ての学習者が持続可能な開発の促進に必要な知識とスキルを習得できるようにするという目標が書かれています。
一方、「ESDはすべてのSDGsの実現の鍵である」と2017年の国連決議に記されたように、ESDは、持続可能な社会づくりの担い手の育成を通じ、SDGs達成のための意識・行動の変容をもたらす学びとして、SDGsの17のすべての目標の達成に貢献するものとされています。



図は「今日よりいいアースへの学び 持続可能な開発のための教育 (ESD) の更なる推進に向けて～学校等でESDを実践されている皆様へ～」(2017年9月、日本ユネスコ国内委員会教育小委員会)を基に作成しました。

地域ESD活動推進拠点 (地域ESD拠点)



地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)とは

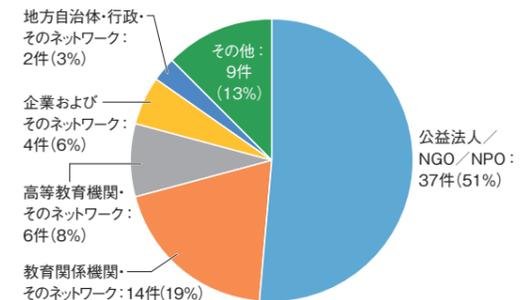
学校現場・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等を、「地域ESD活動推進拠点(以下「地域ESD拠点」)」として登録いただいています。地域ESD拠点は、他の地域ESD拠点やESD活動支援センター(地方・全国)と協力・連携して、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することで、ESDを広め、深めていく中核的な役割を果たすことが期待されています。

地域ESD拠点の登録

地域ESD拠点の登録は、2017(平成29)年11月に開始されました。地域で、先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、地域でESD活動を支援している組織・団体などの協力を得て、地域ESD拠点の登録を進めています。2019(平成31)年2月末現在、教育委員会、社会教育機関、学術研究機関、企業、NGO/NPOなど多様なセクターから、合計72団体が登録されています。



地域ESD拠点の組織・団体種別(全72件)



No	名称	所在地
北海道1	北海道教育大学釧路校ESD推進センター	北海道
北海道2	羅臼町教育委員会	北海道
北海道3	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家	北海道
北海道4	NPO法人旭川NPOサポートセンター	北海道
北海道5	一般財団法人北海道国際交流センター	北海道
北海道6	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川	北海道
北海道7	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見	北海道
北海道8	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森	北海道
北海道9	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸	北海道
東北1	NPO法人青森県環境パートナーシップセンター(AEPC)	青森県
東北2	一般社団法人あきた地球環境会議(CEE)	秋田県
東北3	NPO法人環境パートナーシップいわて	岩手県
東北4	公益財団法人みやぎ・環境とくらしネットワーク	宮城県
東北5	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校	福島県
東北6	公益社団法人仙台ユネスコ協会	宮城県
東北7	NPO法人うつくしまNPOネットワーク	福島県
東北8	NPO法人環境ネットやまがた	山形県
東北9	只見町教育委員会	福島県
東北10	気仙沼ESD/RCE推進委員会	宮城県

No	名称	所在地
関東1	認定NPO法人茨城NPOセンター・コムズ	茨城県
関東2	学校法人日本自然環境専門学校	新潟県
関東3	公益財団法人鼓童文化財団	新潟県
関東4	NPO法人アースライフネットワーク	静岡県
関東5	チャウス自然体験学校(NPO法人 チャウス)	群馬県
関東6	公益財団法人キープ協会	山梨県
関東7	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県
関東8	立教大学ESD研究所	東京都
関東9	NPO法人エコロジーオンライン	栃木県
関東10	新宿ユネスコ協会	東京都
関東11	成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	東京都
関東12	伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会	静岡県
関東13	NPO法人環境パートナーシップちば(NPO環パちば)	千葉県
関東14	多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター	東京都
関東15	新潟市水族館マリニピア日本海	新潟県
中部1	一般社団法人日本体験学習研究所	愛知県
中部2	環境教育ネクストステップ研究会	三重県
中部3	名古屋ユネスコ協会	愛知県
中部4	一般社団法人長野県環境保全協会	長野県
中部5	「なごや環境大学」実行委員会	愛知県
中部6	信州ESDコンソーシアム	長野県
中部7	豊橋ユネスコ協会	愛知県
中部8	石川県ユネスコ協会	石川県
中部9	岐阜県ユネスコ協会	岐阜県
近畿1	近畿ESDコンソーシアム	奈良県
近畿2	公益財団法人京都府環境保全活動推進協会	京都府
近畿3	公益財団法人吉野川紀の川源流物語	奈良県
中国1	津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ	岡山県
中国2	公益財団法人水島地域環境再生財団	岡山県
中国3	岡山市京山地区ESD推進協議会	岡山県
中国4	藤クリーン株式会社	岡山県
中国5	岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会	岡山県
中国6	公益財団法人 岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」	岡山県
中国7	島根県立しまね海洋館	島根県
中国8	公益財団法人山口県ひとつく財団県民学習部 環境学習推進センター	山口県
中国9	NPO法人隠岐しぜんむら	島根県
四国1	新居浜市教育委員会	愛媛県
四国2	高松ユネスコ協会	香川県
四国3	IKEUCHI ORGANIC株式会社	愛媛県
四国4	株式会社ハレルヤ	徳島県
四国5	株式会社土佐山田ショッピングセンター	高知県
四国6	室戸ジオパーク推進協議会	高知県
九州1	鹿島市建設環境部ラムサール条約推進室	佐賀県
九州2	国立大学法人福岡教育大学	福岡県
九州3	大牟田市教育委員会	福岡県
九州4	北九州ESD協議会	福岡県
九州5	公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金	熊本県
九州6	一般社団法人環不知火プランニング	熊本県
九州7	認定NPO法人地球市民の会	佐賀県
九州8	公益財団法人再春館一本の木財団	熊本県
九州9	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会	沖縄県
九州10	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立諫早青少年自然の家	長崎県
九州11	NPO法人おおいだ環境保全フォーラム附属 はざごネイチャーセンター	大分県

計:72団体
ブロック内で登録順に記載

ESD活動支援センター (全国センター)の役割

ESD活動支援センター(全国センター)は、ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行います。地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)、地方ESD活動支援センター(地方センター)やESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。
全国センターは、以下、4つの「はたらき」による役割、3つの「つなぐ」機能を果たすことによりESDの広まり、深まりに貢献しようとしています。

4つの「はたらき」

1 情報の収集・発信

ESDやSDGsに関する情報を、ウェブサイト、SNS等で発信しています。「ESD関連カレンダー」を新設し、利便性の向上に努めています。ウェブサイトやSNSは、情報収集の手段としてだけでなく、発信の手段としてもESD実践者に活用してほしいと願っています。

2 ESD支援体制の整備

地方センターと連携し、地域の実践者のニーズに沿った支援の在り方を検討します。各種相談への対応、行事・催事後の支援、広報支援、講師紹介・派遣などがあげられます。地域でESD活動を支援していただける組織・団体をESD推進ネットワークにおける重要なパートナーとして「地域ESD拠点」の登録を進めています。また、全国規模のESD推進組織・団体との協力関係を広げます。

3 ネットワーク形成と学び合いの促進

ネットワークを育み、互いに学び合う場として、「ESD推進ネットワーク全国フォーラム」を開催します。また、特定のテーマでのワークショップや国際フォーラム/セミナーを開催し、ネットワーク形成と学び合いの促進に貢献します。

4 人材の育成

実践者やコーディネーター、指導者の育成と、活躍の場づくりに取り組みます。また、ユースのキャパシティ・ビルディングを支援します。

3つの「つなぐ」

1 環境・開発・人権・平和・防災・消費・文化などの多様なテーマをつなぎます。

2 ESDを推進・支援する人・組織・プログラムなどを地域をこえてつなぎます。

3 国連機関や海外のESD先進地域の動きなど国際的な情報をつなぎます。

ESD活動支援企画運営委員会

ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向の議論、地域の実情を踏まえた総合的なESD活動支援方策の検討、全国センターへの指導・助言を行います。

●ESD活動支援企画運営委員会委員リスト

齋藤 克義	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 広報室地球ひろば推進課課長 (2018年度前半は、内藤徹課長。異動により後任として委員着任)
佐々木 克敬	宮城県多賀城高等学校校長
佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究所教授 (ESD推進ネットワークの可視化に関するタスクフォース座長)
鈴木 佑司 (副委員長)	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長
関 正雄 (委員長)	損害保険ジャパン日本興亜株式会社CSR室シニア・アドバイザー 明治大学経営学部特任教授
高橋 尚也	日本科学未来館科学コミュニケーター
竹内 よし子	NPO法人えひめグローバルネットワーク代表理事
長澤 恵美子	一般社団法人日本経済団体連合会SDGs本部統括主幹
長友 恒人	日本ESD学会会長
二村 睦子	日本生活協同組合連合会組織推進部長
安田 昌則	大牟田市教育委員会教育長

(敬称略、五十音順)

「つなぐ」展開例

全国規模でESDを推進する組織・団体を対象としたESD推進ネットワーク可視化報告・交流会

ESD活動支援センターは、全国規模でESDを推進している組織・団体に対して、「調査」を行い、協力いただいた組織・団体(以下「協力団体」)に対する報告・交流会を「持続可能な社会を担う人づくりに関する活動の緩やかなつながり」というタイトルで開催しました。参加を呼びかけたのは、2018年度の「調査」にご協力をいただいた協力団体です。「調査」は、全国センターが協力団体に対し、毎年1回実施しています。



この日お集まりいただいた団体は、国際協力、男女共同参画、ユース、環境教育、グローバル教育、ジオパーク、ユネスコ活動、学会など分野で活動しており、いずれも、「持続可能な社会を担う人づくりに関わっている」という共通点があります。この報告・交流会では、それらの協力団体に「調査」の結果報告をし、互いの活動や課題、方向性を知る交流の機会としましたが、それは、分野を超えて「つなぐ」ことの第一歩だと考えています。ESD活動支援センターも意見交換から多くを学ぶことができました。

開催概要

- 日時 2018年10月17日(水) 13:00~15:00
- 会場 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)セミナースペース
- 主催 ESD活動支援センター ■参加 33名

ユネスコ協会との連携

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の民間ユネスコ活動中期計画には、ESDの推進及びESD活動支援センターとの連携が位置づけられています。この動きと連動して、全国センターでは「第74回日本ユネスコ運動全国大会 in 函館」を北海道地方センターと共に後援し、また、各地のユネスコ協会が開催する研修会等の後援や、講師派遣を行いました。また一方で

は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が開催する各ブロック・ユネスコ活動研究会において、ESD活動支援センター(全国・地方)等の周知にご協力をいただきました。こういった動きは、各地のユネスコ協会の地域ESD拠点としての登録の増加や、全国フォーラムへの出展、登壇などにつながっています。

ジオパーク、ユネスコエコパークとの連携

ジオパーク、ユネスコエコパークは、いずれも、地域の持続可能性と、教育・普及を、活動の大きな柱にしています。全国センターは、ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会に講師を招き、ジオパーク、ユネスコエコパークについての理解を深めるとともに、「第9回日本ジオパークネットワーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会」を北海道地方センターと共に後援し、教育についての分科会で講師を務め、各地のジオパーク関係者と交流することができました。

また、「第10回ユネスコスクール全国大会・持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会」の分科会では、地域と学校の連携のワークショップのファシリテーターを務め、ユネスコ世界ジオパーク、ユネスコエコパークから、先進事例の発表をいただきました。

各地のジオパーク推進協議会の地域ESD拠点への登録が増え始めました。また、ユネスコエコパークに登録されている福島県の只見町教育委員会が地域ESD拠点に登録されました。

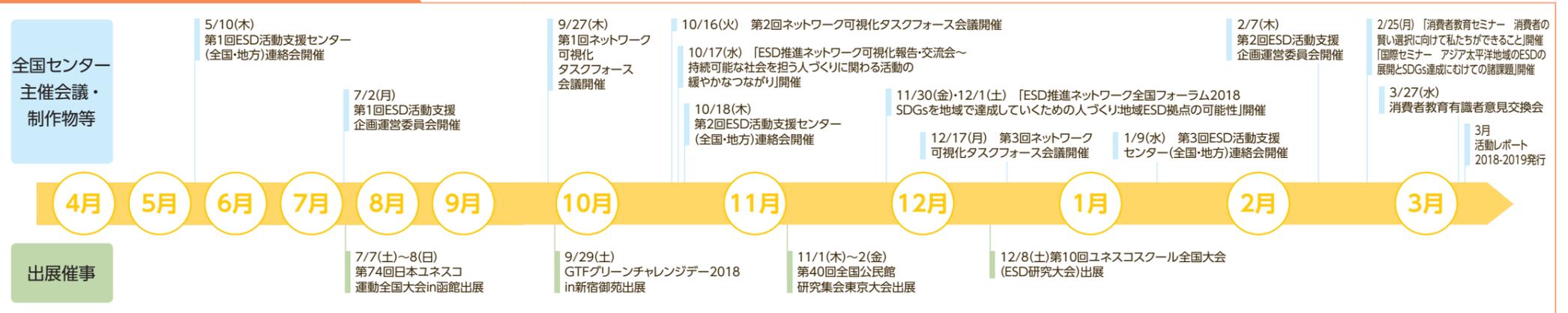


「第9回日本ジオパークネットワーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会」教育分科会
写真提供:三笠ジオパーク推進協議会

ESD円卓会議への資料提供

ESD関係省庁連絡会議が設置したESD円卓会議は、地方自治体、学校、経済界、NGO/NPO、研究者など、多様なセクターからの委員によって構成されています。8つの地方センターと学校や教育委員会との協力・連携の例を収集し、資料として取りまとめ、2018年9月に開催された円卓会議に提出・紹介することができました。

2018年度 活動カレンダー



ESD推進ネットワークの可視化と協力団体

2018年度第1回ESD活動支援企画運営委員会(以下「委員会」)において、委員会にESD推進ネットワークの可視化に関するタスクフォース(以下「可視化タスクフォース」)を設置することとされました。可視化タスクフォースの活動目的は、2016年度及び2017年度に行った可視化タスクフォースの活動成果を踏まえ、ESD推進ネットワークに関する可視化を推進するための各種方策について検討することです。

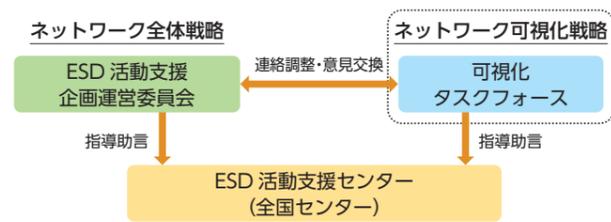


図1. 可視化タスクフォースの位置づけ

可視化タスクフォースは、以下の委員により構成されています。

表1. 可視化タスクフォース委員

委員	
久保田 学	公益財団法人北海道環境財団事務局次長
佐藤 真久(座長)	東京都市大学大学院環境情報学研究所教授
島田 幸子	関東地方ESD活動支援センター
渡辺 文(副座長)	鎌倉女子大学非常勤講師/日本生活科・総合的学習教育学会理事
ESD活動支援センター職員	
柴尾 智子	ESD活動支援センター次長
鈴木 克徳	ESD活動支援センター副センター長

(敬称略、カテゴリー内五十音順)

ESD推進ネットワークの可視化の目的は、ESD推進ネットワークの経年的な質的変化、量的変化を明らかにすることにより、ESD推進ネットワーク全体の現況を外部に発信するとともに、事例の掘り下げを通して、関係主体の取組の改善を図ることです。

可視化に関する各種の調査やアンケートの概要は以下のとおりです。全国規模でESDを推進している協力組織・団体を対象とする調査は2017年度から、地方規模及び地域規模の調査は2018年度から行われています。

ESDの可視化に関する各種調査、アンケートの概要

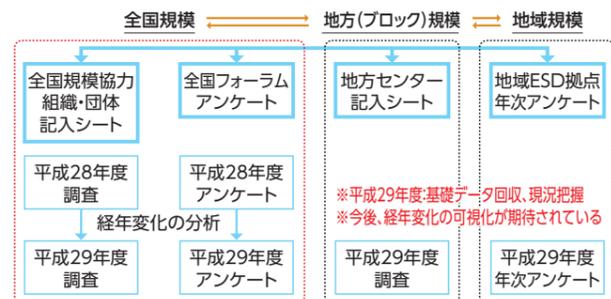


図2. ESDの可視化に関する各種の調査、アンケートの概要

(1) 全国規模の協力組織・団体対象の調査

① 全国規模の協力組織・団体に対する調査

- 全国規模で活動している組織・団体に対する調査であり、2016年度、2017年度について実施されています。
- 調査に協力していただいた組織・団体数は2016年度の11から、2017年度には27に増加しています。

表2. 調査した全国規模の協力組織・団体一覧(2017年度)

協力いただいた組織・団体の名称
1 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
2 全国小中学校環境教育研究会
3 一般社団法人日本環境教育学会
4 日本ESD学会
5 立教大学ESD研究所
6 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部
7 JICA広報室地球ひろば推進課
8 独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
9 独立行政法人国立青少年教育振興機構(NIYE)
10 一般財団法人経済広報センター
11 一般財団法人持続性推進機構
12 一般社団法人エシカル協会
13 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)
14 公益財団法人五井平和財団
15 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)
16 公益社団法人全国公民館連合会
17 公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)
18 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟(NFUAJ)
19 公害資料館ネットワーク
20 国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)
21 NPO法人開発教育協会(DEAR)
22 NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC)
23 NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)
24 NPO法人日本ジオパークネットワーク(JGN)
25 NPO法人日本持続発展教育(ESD)推進フォーラム
26 NPO法人日本ボランティア・コーディネーター協会(JVCA)
27 一般社団法人日本経済団体連合会

(順不同)

- 団体の属性としては、公益法人やNGO/NPOが多く、教育関係機関がそれに続いています。
- 調査対象組織・団体による活動分野は、ゴール4(教育)、ゴール17(パートナーシップ)が多いですが、前年度と比べ多様化しています。

取り扱うテーマ(2017年度:複数回答可)

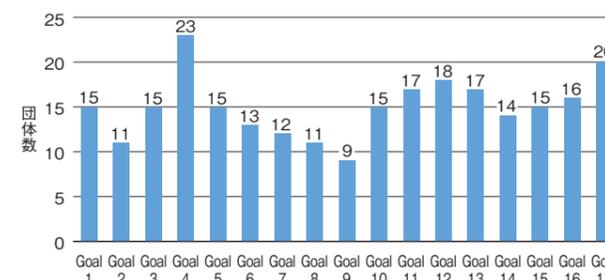


図3. 全国規模の協力団体が取り扱うテーマ(SDGs)

- 他団体に対して行っている支援としては、活動奨励、広報協力等が多いです。この傾向は2年間変わっていません。
- ESD活動支援センター(全国センター)との連携については、情報の提供・交換、広報協力、後援名義の使用などが多いです。
- ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018 アンケート調査
 - アンケートでの回答数は参加者実数256人に対して101でした。
 - 参加者のタイプとしては、公益法人やNGO/NPOの職員が多く、教育関係者が続いています。
 - 参加者が重点的に取り組んでいる課題としては、ゴール4(教育)が多く、ゴール11(持続可能なまちづくり)、ゴール17(パートナーシップ)が続いています。

重点的に取り組んでいる課題(2018年度:複数回答可)

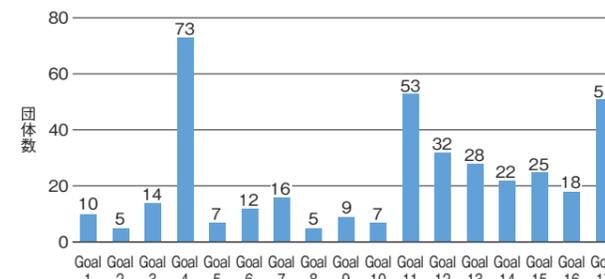


図4. 全国フォーラムの参加者が重点的に取り組んでいるSDGsゴール

- フォーラム全体の評価は高く、94%の参加者が大変良かった、良かったと評価しました。特に「フォーラムに参加してESD・SDGsに対する理解が進んだ(90%)」、「自らのESDのネットワークを広げられた(85%)」点を評価しています。また、「事例を学べた(75%)」、「ESD関係者との交流ができた(79%)」ことが高く評価されています。

(2) 地方(ブロック)規模の調査: 地方ESD活動支援センター(地方センター)による地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)との連携

- 2017年度から、地方センターと地域ESD拠点との連携状況を調べることを目的として、全国8ブロックの地方センターに対して実施しています。

- 地域ESD拠点の属性としては、公益法人やNGO/NPOが多く、教育関係機関がそれに続いています。
- 連携方策としては、情報提供・交換、広報協力が多く、共同企画立案、実行委員会・協議会等が続いています。全国規模の調査と比べて、共同で行う企画立案や事業協力等が多く見られることが特徴的です。また、戦略協働、政策協働等の中長期的な視点に立った連携協力の萌芽が見られます。
- 本調査は、地方センターと地域ESD拠点との関係に絞って行った調査です。地方センターによるESDの協働は、必ずしも地域ESD拠点とだけ行われているわけではないことに留意する必要があります。また、今後、データの蓄積とともに経年的な傾向を分析・検討することが期待されます。

(3) 地域規模の調査: 地域ESD拠点年次アンケート

- 2017年度末に地域ESD拠点であった27団体全てに対して調査しました。2017年度調査が初回であり、2018年度当初に回収しています。
- 地域ESD拠点の属性としては、公益法人やNGO/NPOが多いです。
- グローバル・アクション・プログラム(GAP)との関係では、地域コミュニティ、教育者、ユースに係る活動が、この順番で多いです。
- SDGsのゴールとの関係では、多くのゴールに係る活動が行われていますが、特にゴール11(持続可能なまちづくり)、ゴール17(パートナーシップ)、ゴール4(教育)が多いです。

取り組んでいる課題(2017年度:複数回答可)

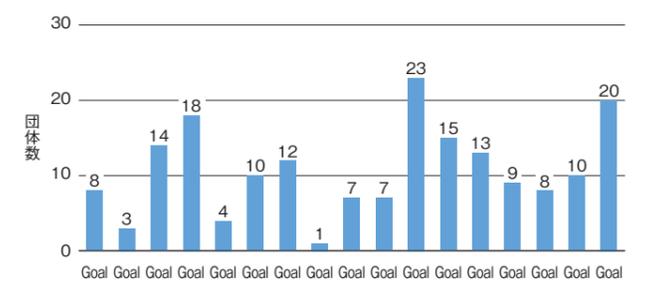


図5. 地域ESD拠点が重点的に取り組んでいるSDGsゴール

- 支援活動は、情報提供、(交流)機会の提供、共同企画・実施、広報協力等多岐にわたっています。
- 2017年度調査は、地域ESD拠点の登録が開始されてから半年もたっていないことから、2017年度調査結果をベースラインデータとして、今後経年的な変化を見ていくことが適切と考えられます。

グラフの凡例: 17のSDGsゴール

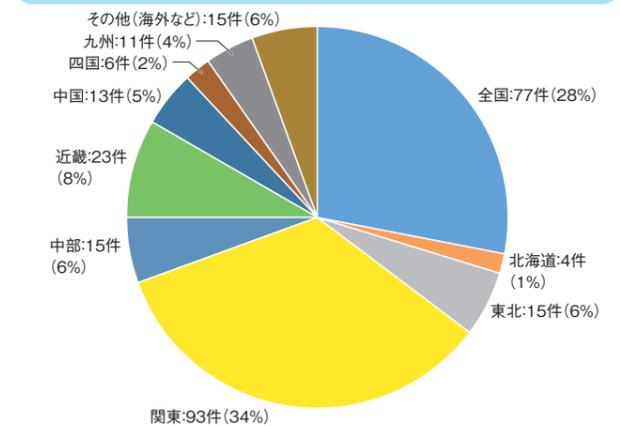
Goal1 貧困/Goal2 飢餓/Goal3 健康/Goal4 教育/Goal5 ジェンダー/Goal6 水・衛生/Goal7 エネルギー/Goal8 雇用/Goal9 技術革新/Goal10 格差是正/Goal11 持続可能なまち/Goal12 持続可能な生産消費/Goal13 気候変動/Goal14 海洋資源/Goal15 陸上資源/Goal16 平和/Goal17 パートナーシップ

相談窓口

ESD活動支援センター(全国センター)では、ESD活動を実践するに当たっての相談や支援の要請などを、電話、メール、ウェブサイトのフォーム、訪問などで受け付けています。

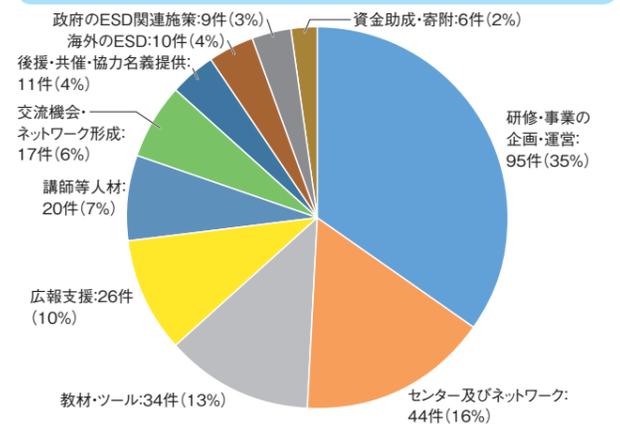
全国センターへのお問い合わせやご相談件数は、2016年度の65件、2017年度の141件に対し、2018年度からは、相談・支援体制を強化したため、272件と大幅に増加しました。(期間はいずれも4月～翌年2月末まで)

相談者の活動地域



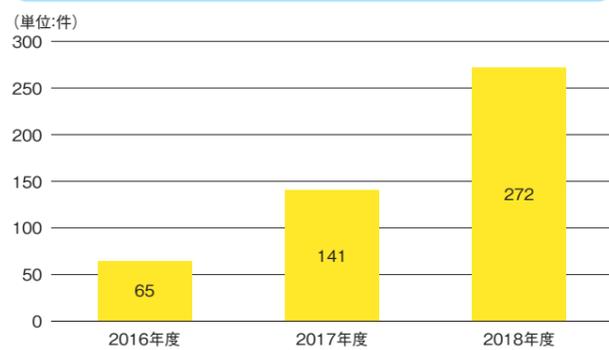
全国センターが東京にあることから、東京に本部を置く組織とともに関東地方の個人・団体から相談を多く受ける傾向があります。相談内容が地域や地方に関連するものや、つながることにより活動の展開が見込める場合等は、地方センターと連携をとって対応しています。地方センターと共同で相談に応じたケースもあります。

相談の内容

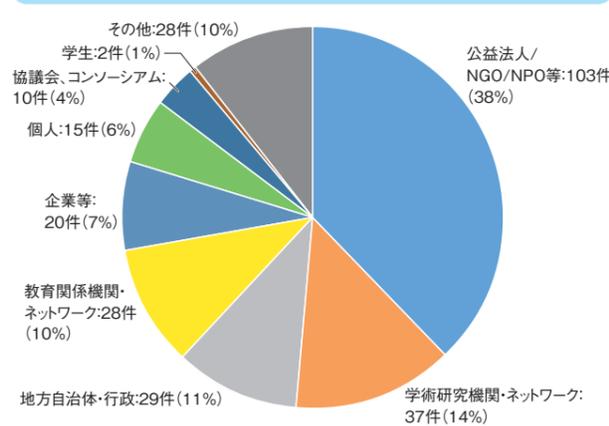


グラフ上の分類にはありませんが、SDGsの広まりとともに、SDGsを運営や活動に取り入れる方策の相談や、SDGs関連資料の入手、講師の紹介依頼、カラーホイールバッジの作成方法についての質問等、SDGsに関する相談が増えています。

相談件数の増加

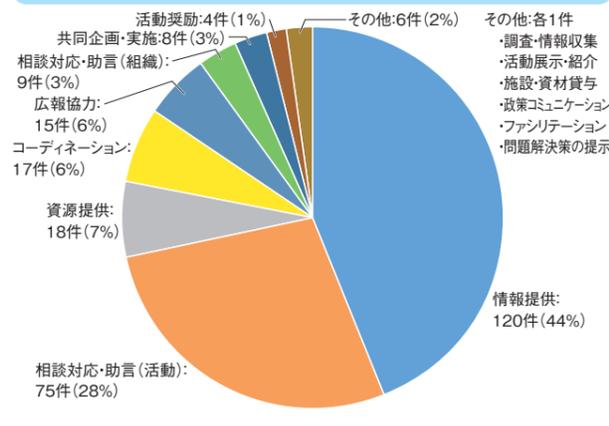


相談者の属性



相談者の属性は、公益法人/NGO/NPO等、学術研究機関(大学等)、教育関係機関(小中高等学校および教育委員会等)、地方自治体・行政、企業、個人等、多様な主体から相談を受けています。相談をきっかけにやり取りを続けていくことで連携や相互支援につながることもあります。

支援の方法



相談、問い合わせに対しては、情報提供や活動上の助言を中心に、必要に応じてコーディネート、広報協力等を行っています。後援や職員派遣等の協力・連携を行ったケースも多々あります。

朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」 主催 朝日新聞社

環境について学ばなかに興味を持ったこと、考えたことを伝える「かんきょう新聞」の優秀作品の選定において、テーマを超えて環境を広く扱っている優れた作品を審査の対象としたいという相談からスタートした「ESD活動支援センター賞」が継続し、3回目を迎えました。今年度の「ESD活動支援センター賞」の選考対象となったのは1,577作品で、そのうちから優秀作品1点と佳作3点を選考しました。

「かんきょう新聞：総応募数7982作品！
優秀作品を発表 | 地球教室 | 朝日新聞デジタル」
(<http://www.asahi.com/ad/clients/chikyu/program/shimbun/>)



海外と「つなぐ」展開例

国際会議の参加者や海外からの訪問者からも、日本独自のシステムであるESD推進ネットワークについて知りたいという要望があり、受け入れや職員派遣などによる説明、情報提供をしています。

ESD推進ネットワークの活動について理解したいという要望から、中国可持续发展教育(ESD)全国工作委员会 執行主任(Executive Director, Chinese National Working Committee of ESD)の史根東博士(Dr. Shi Gendong)とアシスタントのエンさんが、2018年8月7日(火)に宮城教育大学の市瀬智紀教授の同行(兼通訳)で来訪されました。地方センターが8か所に開設され、地方センターと全国センターとが連携して、日本全国でESDを推進できる仕組みを作ったことが参考になったようでした。すでにある日中間のESDにもつながる交流プログラムも念頭に、中国可持续发展教育(ESD)全国工作委员会とESD活動支援センターの間でも交流の方法を探っていくことになりました。



意見交換後に



岡山市立足守公民館にて
写真提供：岡山大学

2018年9月10日(月)～14日(金)にかけて岡山大学で行われた「SDGs達成に向けたアジア地域ESDワークショップ Regional Workshop on Enhancing Community Engagement for Education for Sustainable Development (ESD) towards achieving Sustainable Development Goals (SDGs)」(主催:ユネスコ、岡山大学、岡山市、岡山ESD推進協議会、ユネスコ・アジア文化センター)では、要望を受け全体指導と基調講演のため職員派遣を行いました。ワークショップに招待する対象者を提案したことが参加者の幅の広がりにつながるとともに、基調講演で紹介した日本のESD推進ネットワークや国連大学RCEIに対してアジア各国の参加者から多大な関心が示されました。

世界の教育モデルについて理解を深め、ESDに向けた共通の課題について、スウェーデンの教員・学生と東京大学の教員・学生が学び合うことを目的とした「Tokyo Training Program -Education for Sustainable Development」の一環として、全国センターを訪問したいという要望を東京大学教育学部のプログラム責任者より受けました。2018年12月12日(水)に東京ウィメンズプラザを会場にして、ストックホルム大学の教員・学生、グローバル高校の高校生、東京大学の教員・職員・学生16名を迎え入れ、ESD推進ネットワークや日本のESD実践例を紹介した上で質疑応答を行いました。



参加者16名と講師役2名の集合写真



日本のESDの展開を伝える

全国センター・地方センター ウェブサイトで発信中

ESD活動支援センター(全国センター) 公式ウェブサイト

コンセプト

「仲間を増やすウェブサイト、仲間の力をつけるウェブサイト」を目指し、他のウェブサイトへの有効なポータル(入り口)として機能するコンテンツづくりに努めています。
また、SNS等と連動して情報を一元的に発信し、ESDの魅力伝える・ESD関係者を増やすツールにしたいと考えています。

目指している“役割”

- ESDを実践する方に役立つ情報を発信することによる、ESDの活性化
- ESDのフレーズを用いている情報の一元化、整理、蓄積と発信
- ESDのフレーズを用いていないESDに関係する情報の洗い出しと統合

今年度は、昨年度に引き続き全国及び地方センターの各ウェブサイトの「運用」に注力し、セキュリティ強化対策としてすべてのウェブサイトを常時SSL化させました。また、「ESD関連カレンダー」を新設し、情報の共有に役立てました。全国・地方センター後援等事業については特に広報・成果共有に努めました。



全国センターウェブサイト



【ESD活動支援センター公式 Facebookページ&Twitter】

Facebookページ
ウェブサイトの更新情報のほかに、センター主催イベントの告知や開催報告などを掲載しています。
▼いいね!数:490 ▼フォロワー数:548 (2019年2月末現在)

@2016esdcenter.jp

お気軽にいいね! / フォローしてください!

Twitter
主にウェブサイトの更新情報をツイートしています。
▼フォロワー数:111 (2019年2月末現在)

@esd_center

お気軽にフォローしてください!



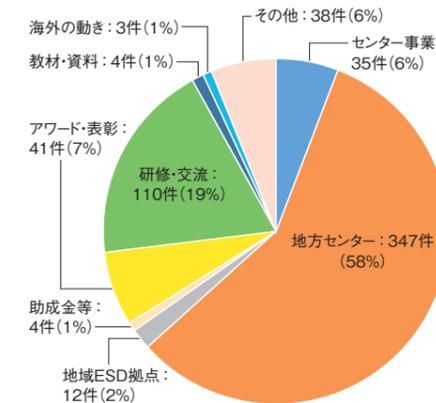
Facebookページ掲載記事



Twitter掲載記事

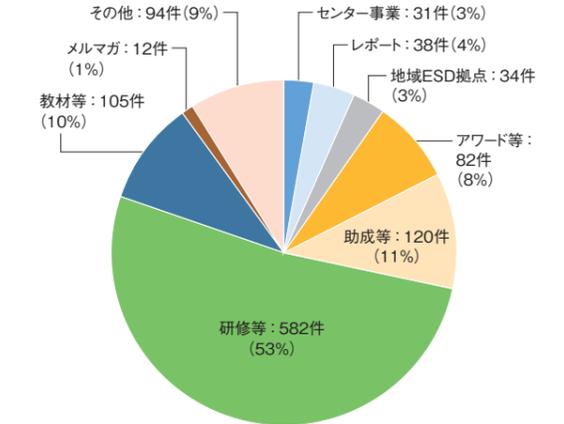
ウェブサイト・コンテンツのご紹介

●全国センターカテゴリ別掲載件数(全594件)



※カテゴリ「地方センター」(全347件)は、地方センターウェブサイトの更新情報等を指します。

●8地方センターカテゴリ別掲載件数(全1098件)



※8つの地方センターウェブサイトの掲載記事総数でグラフ化。

ESD関連カレンダー 2018年度新コンテンツ

全国的なESD推進団体より寄せられたESD・SDGs関連催事(研修や交流会、コンテスト等)やESD活動支援センターが後援等を行う同様の催事情報を掲載するカレンダーです。

地域ESD拠点

地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)として登録された組織・団体等のリストおよび詳細情報を掲載しています。(→p6~7)

ESDとは

ESDに関する組織・団体の「ESD」についての説明ページをご紹介します。対象者に合わせ独自の工夫がなされている様々な「ESDとは」をご覧ください、ご活用ください。

#ESDワカモノ(ハッシュタグESDワカモノ)

全国から選出された若者世代のレポーターが、ESDに関する様々な活動にじかに触れ、生の声を聴き、「ワカモノ目線」でESDを切り取ったレポートを掲載しています。

PICK UP

新コンテンツ「ESD関連カレンダー」

ESDやSDGs関連のフォーラム・イベントなどがどこかにまとまっていたらいいのに…という関係者の思いを実現すべく、新設しました。情報収集と情報発信にご活用ください。イベント規模の大小を問わず掲載いたします。皆さんからのご連絡をお待ちしています。

PICK UP

新コンテンツ「海外の動き」

ESDに関する国際的な動きについての発信を強化するために新設しました。国外在住の実践者、専門家、国際機関スタッフ等の皆さんがお住まいの国で見つけた・感じた「ESD」についての「海外通信員レポート」(→p29)も掲載しています。

私たちについて

「ESD推進ネットワーク」の目的やセンター設立の背景など「私たちについて」の情報、また、全国センターの活動レポート、リーフレットのダウンロード用データ等を掲載しています。

アワード・表彰

ESD・SDGs公式の賞、皆様にご活用いただけるESD・SDGs関連の賞をご紹介します。

公式ドキュメント

ESDに関する公式ドキュメント(宣言、国内実施計画、国連/ユネスコ文書、条例等)のPDFデータを掲載しています。

お問い合わせ

ESD活動支援センターへのお問い合わせ、ご相談専用フォームを設置しています。全国センターへのご来訪を希望される場合のご連絡も、こちらをご利用ください。

地方センター

全国8か所の地方ESD活動支援センター(地方センター)の一覧です。各地方センターウェブサイトへのリンクや担当エリア(都道府県)、住所等の連絡先を掲載しています。

研修・交流

ESD・SDGsに関連する研修や交流会などの情報を、開催日の新しい順に掲載しています。

海外の動き 2018年度新コンテンツ

国連機関や海外のESD先進地域の動きなど、ESDに関する国際的な情報を掲載しています。海外通信員(→p29)によるレポートもこちらに掲載しています。



ESD関連カレンダー



海外の動き



ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018

SDGsを地域で達成していくための人づくり: 地域ESD拠点の可能性

ESD推進ネットワーク全国フォーラム(全国フォーラム)は、持続可能な社会を担う人づくりに関わる多様なステークホルダーが一堂に集い、ESDに関する最新の国際動向、国内動向及びネットワーク形成の状況を把握するとともに、相互のつながりを構築・強化することにより、ネットワークが成長するための機会として、一年に一度開催してきました。

3回目となる今回は、SDGsを地域で達成していくための人づくりとしてのESDと、ESD推進ネットワークにおいて重要な役割を担う地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)に焦点を当て、意見交換を行いました。

2日間にわたって開催された全国フォーラム2018には、全国各地から、のべ369名が参加しました。

<開催目的>

- ESDに関する最新の国際動向、国内動向、「ESD推進ネットワーク」のこれまでの到達点を共有
- SDGs達成に向けた意識・行動変革を進めるESDという意識を共有
- 「ESD推進ネットワーク」において重要な役割を担う地域ESD拠点の活動と可能性について、具体的活動事例に基づいた経験の交流
⇒地域ESD拠点間のつながりを深め、活動の深化、高度化を図る
- 地域ESD拠点の活動を学ぶことにより、地域ESD拠点への関心を喚起し、地域ESD拠点登録を促進する
- 分野、セクターを超えて多様な主体が連携・協働してESDを推進(質的向上・量的拡大)するために、お互いに面識を作り、地域を超えて実践例を基に学び合い、ESD推進方策について意見交換を行う機会を提供

<開催概要>

- 主催 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省
- 共催 独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援 日本ユネスコ国内委員会
- 協力 32団体(出展、広報等による協力)
- 日時 平成30年11月30日(金) 13:00 ~ 18:00
12月1日(土) 9:30 ~ 14:30
- 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟小ホール等



p16~27 写真協力/池田 満之さん・大塚 明さん

プログラム概要

1日目:11月30日(金)

開会	主催者挨拶
フォーラム導入	・フォーラムの目的とプログラムの概要 ・ESD推進ネットワークの「可視化」(見える化)の意義
セッション1	基調パネルディスカッション SDGsを地域で達成していくための人づくり・ESDのさらなる展開に向けて
セッション2	ポスター発表・情報交流セッション(50団体の出展)
セッション3	ESD関係省庁施策とESD推進ネットワークへの期待 持続可能な社会づくりのための消費者行動をめぐる諸課題を中心に

2日目:12月1日(土)

セッション4	分科会:地域ESD拠点:活動成果と可能性 分科会1 学校と地域ですすめるESD 分科会2 自然災害に備える人づくり 分科会3 地域と「国際」をつなぐESD 分科会4 ユースの関わり、ユースの巻き込み 分科会5 体験活動を提供する施設のESD
セッション5	全体総括 ・分科会成果報告 ・総括コメント
閉会	共催者挨拶

総合司会 腰塚 安菜さん
ESD活動支援センター2016年度・2017年度社会人ユースESDレポーター
*閉会後に「地域ESD拠点特別セッション」を開催

開会挨拶より

●文部科学省国際統括官 大山 真未さん

文部科学省は、SDGsの達成に向けた取組を強化していますが、ESDはSDGsの全ての目標を達成するための人づくりという重要な役割を担っています。2020年以降のESD推進に向けて、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)の後継枠組みに関する議論が世界的に進められていますが、その中でもSDGs達成に向けたESDの重要性が強調されています。国内では、新学習指導要領(平成29・30年公示)や第3期教育振興基本計画の中



でもESDの重要性が強調されています。本フォーラムを通じて、ESDに関わる幅広い関係者が広くつながることを期待します。

●環境省総合環境政策統括官 中井 徳太郎さん

環境省では、昨年5月に閣議決定した第5次環境基本計画において地域循環共生圏という考え方を打ち出し、地域における様々な課題の同時解決に向けた取組を進めていますが、ESDはその担い手を作るものであり、地域循環共生圏の推進のための重要な基盤になると考えています。また、今回は、持続可能な社会づくりに向けた消費者の賢い選択について議論されます。環境省としても、例えば「プラスチック・スマート」キャンペーンなどの取組を展開しています。本フォーラムを通じて一人ひとりの消費者が賢い選択をするようになり、消費者の行動変容がもたらされるきっかけとなることを期待します。

●ESD活動支援センター センター長 阿部 治さん

ESD活動支援センターは、民間の提言を受けて文部科学省、環境省により官民共同のプラットフォームとして作られたもので、あらゆるステークホルダーが集まり、地域から世界をつなぐ実践を行うことを目指しています。今年はSDGsにフォーカスを当て、地域での実践によってSDGs達成を目指していこうとしています。SDGsの宣言では、「私たちの世代がこの地球的課題を解決できる最後の世代かもしれない。」と述べています。本フォーラムにより、持続可能な社会の担い手を育てる学びが進むことを期待します。

フォーラム導入

フォーラムの目的とプログラムの概要

●ESD活動推進センター 副センター長 鈴木 克徳さん

ESD活動支援センター(全国・地方)は、2016年3月に策定されたESD国内実施計画に位置づけられ、2016年4月に全国センターが、2017年7~9月に8つの地方ブロックで地方センターが開設されました。全国センターにはESD活動支援企画運営委員会、ESD推進ネットワークの可視化に関するタスクフォースが設けられ、全国センターに対する指導助言が行わ

れています。本フォーラムは、「SDGsを地域で達成していくための人づくり」をテーマに、2017年11月に登録を開始し、これまでに60余り登録されている地域ESD拠点の可能性について議論することとし、1日目には基調パネルディスカッション、ポスター発表、消費者の賢い選択に焦点を当てた関係省庁の施策の紹介を、2日目には5つの分科会と総括セッションを開きます。

ESD推進ネットワークの「可視化」(見える化)の意義

●京都市大学大学院環境情報学研究所教授 佐藤 真久さん

可視化の意義について話す前に、このような議論が起こる背景について説明します。可視化の議論は、ネットワークがどう変化を遂げていくのか見ていくことが重要との考え方で始められました。これは、世界的にも大変ユニークな取組です。ドイツでは個人個人のつながりの変容を見る手法が開発されていますが、組織のつながりの変容を見るような取組は開発されていません。2018年3月にコスタリカでGAP以降のESDの枠組みを議論する会合がありましたが、その中で、優先分野の有機的な取組の不足が指摘され、組織間でのように相乗効果が得られるかが重要との認識が示され、相乗効果の可視化の重要性が指摘されました。現況把握と経年変化の分析により、全体の活動を面的に明らかにしようという試みです。そのような可視化の取組により、さらに次年度以降にいかせるようなアイデアや改善策を考えることができるようになります。

可視化の意義には、①ネットワークの活動を対外的に発信すること、②事例の掘り下げを通じて質的、量的な改善を図ることがあります。つながることによってESDを量的、質的に拡充するような、いわゆるワーキングネットを構築することが重要です。実行委員会や共催・後援などといった形で組織と組織がつながることにより、更なる協働の展望が開けます。全国フォーラムもそのようなワーキングネットの一つと考えられます。



セッション1:
基調パネルディスカッション
SDGsを地域で達成していくための人づくり・ESDのさらなる展開に向けて

モデレーター

関 正雄さん(損害保険ジャパン日本興亜株式会社
 CSR室シニアアドバイザー/明治大学経営学部特任教授)

パネリスト

- 【企業の立場から】百瀬 則子さん(ユニー株式会社 顧問)
- 【学校の立場から】大澤 厚美さん(彦根市立佐和山小学校 校長)
- 【地域の立場から】五十嵐 実さん(学校法人日本自然環境専門学校 校長
 /公益財団法人鼓童文化財団 理事長)
- 【ESD活動支援センターの立場から】
 澤 克彦さん(九州地方ESD活動支援センター)
 柴尾 智子さん(ESD活動支援センター 次長)



地域の課題の解決を目指す様々なセクターの実践についてお話を伺い、異なる分野や組織の活動が「つながる」ことで、地域レベルでのSDGsの達成、持続可能な地域づくりに貢献する人づくりを効果的に行う方法について学びました。

<発表・質疑応答より>

●百瀬 則子さん

ユニーは中部地方と関東地方を中心に180店舗展開しているスーパーマーケットです。私たちは「人づくり、モノづくり、コミュニティづくり」としてESDに取り組んでいます。

「人づくり」では、子どもたちがグリーンコンシューマーになるため、お店に子どもたちを招いて、環境に配慮した商品、廃棄物の処理方法、リサイクルの取組等を店長が紹介します。そのため前日には、店長自ら廃棄物庫の整理をしたり、環境商品をチェックしたりするので、従業員の関心も高まります。そして子どもたちと一緒に店舗を歩いていると、地域の人と一緒に話を聞いてくださいます。

「ものづくり」では再生資源を使ったり、地域の環境を大切にしたい商品を選ぶことを、「コミュニティづくり」ではその地域を持続可能な社会にしていく方策と一緒に考え実行していくようにしてきました。

例えば、お店の広いスペースを使って、自治体や地域のNPO、企業等がブースを出し、環境への取組を紹介する体験型のイベントを行っています。大きな店舗は一日2~4万人も訪れるので、環境に関心を持ち、買い物の視点が少し変わる人を少しずつ増やすことにつながっています。

さらに、地域の諸団体と組んで市民インタープリターを育てています。市民インタープリターは、ユニー店舗内だけでなく自治体の講座や学校への出前講座等で活躍し、地球を救うショッピングを市民の間に広げています。

SDGsの12「つくる責任つかう責任」は、まさしく私たちがESDとしてやってきたことです。店舗は商品を売るだけでなく、原材料はどこでどのように作られているのかを伝え、消費者は何を選べば世の中が持続可能になるのかを学び、また生産者にフィードバックすることで、フェアトレードにつながっていきます。

●大澤 厚美さん

滋賀県の人口は145万人ですがその約10倍の1,450万人が琵琶湖の水を飲み水にしています。県内約210校の小学校では、全ての5年生が一泊二日、湖の上で環境学習をする琵琶湖フローティングスクールを何十年も続けています。

私は7年前から4年間は城西小学校で、その後は現在の佐和山小学校で校長を務め、ESDに取り組んでいます。いずれの学校でも重要視してきたのは「think globally, act locally」、行動できる子どもたちを育てることです。

佐和山小学校の海洋教育では、子どもたちが漁師さんのお話を聞いたり、琵琶湖の水質調査を行ったりして、琵琶湖と共に生きるということなのかな、また湖の中には多くの生物が生きているということを学びます。そして、琵琶湖と自分たちとの暮らしの間には深い関わりがあることを感じ取ります。

子どもたちに行動を促すためには、子どもたちの価値観に揺さぶりをかけることが大切です。例えば「琵琶湖を汚してしまうから、琵琶湖の周りには人は住まない方がいい?」という問いかけを生徒にすると、生徒は一生懸命考えて、「琵琶湖のために何もしない人は住まない方がいい」「人間は琵琶湖を汚すこともできるけど、きれいにすることもできる」といった答えが返ってきます。ESDの視点で投げかけることが、SDGsにつながっていくと実感しています。

城西小学校では私が転出して3年がたっていますが、今もESDを活発に行っています。ここには地域の方々や保護者の方々と一緒に作った城西ユネスコスクール推進協議会というものがあり、校長が代わってもESDを持続できる仕組みになっています。地域のメディアでの発信を心掛けることもつながりづくりのために重要です。

滋賀県は、県の基本構想と教育振興基本計画にSDGsがしっかり位置づけられており、期待しています。

●五十嵐 実さん

日本自然環境専門学校は、自然環境を守る人材を育成する学校です。フィールドは、新潟市、佐渡、阿賀野川等で、いずれも少子高齢化という地域課題を抱えています。

学生に対してはSDGsを対話型で学ぶ授業として、これらの課題を学び、「あなたは何に貢献できるのか?」を問いかけ、考える場を作っています。また、地域の小学校のピオトープの造成、維持、管理に学生が関わり、授業も学生が担当しています。これはSDGsの4「質の高い教育」、15「陸の豊かさを守ろう」に直接関係していますが、できるだけ地域に開かれた学習を大切にしています。

コンソーシアム型の事業としては、あがのがわ環境学舎を設立し、阿賀野川流域地域の住民・行政・民間団体が、当該地域で発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を築き直していく持続可能な地域づくりに取り組んでいます。これは、文部科学省のユネスコ活動補助金を受けた活動で、実施体制に、阿賀町、阿賀町教育委員会、あがのがわ環境学舎、日本自然環境専門学校に加え、公害の発生原因となった企業である昭和電工が参画していることが大切な点です。なお、この補助金を頂く時には、関東地方センターの情報協力を頂き、地域ESD拠点のメリットを感じました。

地域ESD拠点としては、自発的な動きを作っていくことが必要で、そのためには、それぞれの団体が協働できるようなプログラムの制作、団体に有用な情報の提供、協働でイベントを開催する、そして企業や公共団体に対する提言や協働活動を提案していくことが大切だと思います。また、多様な組織が協働していくために一番大切なことは対話がしっかりできることでしょう。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という理念を持ちESDを発展させていきたいと思っています。

●澤 克彦さん

環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)を基盤としてその10年の実績を基に、全国8か所に生まれた地方センターの一つ、九州での取組から、「教育委員会との連携は一日にしてならず。3年は欲しい」というお話をさせていただきます。

九州・沖縄地方には現在10の地域ESD拠点があります。その一つ、大牟田市教育委員会は「炭鉱の町から教育の町へ」というスローガンの下、教育長のリーダーシップと事務局のマネジメント体制でESDを推進しています。九州地方センターは3年前から連携を始め、「ユネスコスクール教育委員会サミット」、「ユネスコスクール交流会」等を、後援や共催等の形で支えてきました。

作業としてはこまごまとした打ち合わせや調整の積み重ねで手間もかかりますが、互いのリソースをいかし合い、「痛み

分けでなくうまみ分けでいきましょう」と話して取り組んでいます。地方センターだけではできないことが教育委員会と一緒にできる、他方、教育委員会が求めているネットワークの拡充や巻き込みが広域をカバーする地方センターであるからできる、というように互いの強みをいかすことができます。大牟田市教育委員会はかなり先進的ですが、特別なところからできること、とするのではなく、各地に応用できる学びやノウハウの宝庫と捉え、それらを、地方センターを介して他地域に広げていこうとしています。

また、福岡教育大学はユネスコスクール支援大学間ネットワークの加盟大学として様々なネットワークとノウハウを持っていますが、こちらとも研修等への協力を双方向に行うといった連携を進めています。今年度、更なる取組として、ESDに関する大学等の有識者のネットワークづくりにも取り組みつつあります。

地方センターは、専門性と地域性を持った様々なスケールのネットワークを交差させ、つながる効果を高められるよう、ネットワークのハブとして機能していきたいと考えています。

●柴尾 智子さん

皆さんの素晴らしい実践について伺って、ユネスコスクールやESDコンソーシアム事業、EPOの活動など、既存のプログラムが活用されていることが確認できたと思います。これらの活動は、ESD活動支援センターがなくても成り立つわけですから、ESD活動支援センター、ESD推進ネットワークがあることで、そのような素晴らしい活動がどのように広まり、深まり得るのか、自戒の念を込めて聞いておりました。

2年前、ESDの第2ステージが始まる最初の全国フォーラムで、パネリストをお願いした際に、関さんは「SDGsがESDに共通の言語を作るんだ」とおっしゃいました。現在、まさにそのとおりの状況になってきており、SDGsの浸透は、ESDにとっても追い風であり、ESDはSDGsのすべてのゴールの達成に貢献するものです。ESD活動支援センター自体に大きなリソースがあるわけではありませんが、つなぐ機会を作ることで、役割を果たしていければと思っています。

<モデレーター 関 正雄さんのまとめより>

皆様から非常にヒントになる、また刺激になるお話をたくさん頂きました。私からはまとめに代えて、企業の立場からお話しさせていただきます。

今回の参加者には、企業の人が残念ながらほとんどいません。企業は他セクターと「連携したい、できる」と考えていますが、まだかみ合っていないように思います。経団連はSDGsに力を入れています。私が携わった経団連「企業行動憲章」の改訂では、「Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成」をうたい、企業がすることは、イノベーションによって大きな変革を促すことだとしています。経団連のウェブサイトにはイノベーション事例集も公開されているので、是非ご覧ください。今後、全てのセクターの対話の場、連携の場を2030年に向けて作っていければよいと思っています。

セッション2: ポスター発表・情報交流セッション 持続可能な社会づくりのための多様な活動紹介

このセッションでは、フォーラム中を通じて全体会場前のスペースに配置された、持続可能な社会づくり、人づくりに関わる50の組織・団体の展示を、参加者が自由に訪問し、様々な活動について学びました。
(出展組織・団体は、下段リスト参照)

セッション3: ESD関連省庁施策とESD推進ネットワークへの期待

モデレーター

二村 睦子さん (日本生活協同組合連合会 組織推進本部長)

ESD関連省庁からの発表

- 米山 眞梨子さん (消費者庁消費者教育・地方協力課消費者教育推進室長)
- 倉見 昇一さん (文部科学省初等中等教育局教育課程課主任学校教育官)
- 中川 一郎さん (農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)
- 鈴木 弘幸さん (環境省環境再生・資源循環局リサイクル推進室室長補佐)



持続可能な社会づくりのための消費者行動をめぐる諸課題を中心に、消費者の賢い選択に向けた具体的施策について学び、私たちの実践にいかしていけるよう、関係省庁のお話を伺いました。

●消費者庁 米山 眞梨子さん

消費者庁では、消費者基本計画における主な施策とSDGsの関係を整理し表にまとめています。ESDはその中の「消費者が主役となって選択・行動できる社会の形成」施策と最も関係が深く、そこには、エシカル消費(倫理的消費)の普及啓発、ライフステージを通じた体系的な消費者教育の推進、食品ロスの削減、消費者志向経営の推進等が入っています。

消費者教育推進法は2012年に成立・施行されました。消費者教育の体系イメージマップは、幼児期から高齢期まで、生活のあらゆる分野で統合的に進める消費者教育の全体像を示したものです。「消費者市民社会の構築」の柱に「消費が

持つ影響力の理解」「持続可能な消費の実践」「消費者の参画・協働」の領域があり、ESDと親和性が高いところだと考えています。

最近の施策としては、エシカル消費の普及・啓発に力を入れています。それまで地域で活動してきた方々が一堂に会してつながっていく場として、「エシカルラボ」というシンポジウムの各地での開催が具体例の一つです。

●文部科学省 倉見 昇一さん

学習指導要領においては、持続可能な社会を目指した消費者教育に関する記述は、主に小学校5・6年の家庭科、中学校

の技術・家庭科、高校の家庭科にあります。具体的には、小学校では「自分の生活と身近な環境とのかかわり」、中学校では「環境に配慮した消費生活」、高校では「持続可能な社会を目指したライフスタイル」や「適切な意思決定に基づいた消費生活」といった記載があります。

また、大事なことは家庭科のみならず、社会科、理科、総合的な学習の時間など、教科を横断してESDの観点から学習が行われることです。そして、学校で学んだことが、自分の生活にいきて働く知識になることが重要です。

そのためには、実践的で体験的な学習、課題解決型の学習が大切です。新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」という考え方を示すなど、家庭や地域と連携して、実社会・実生活にいかすことができるような学びを目指しています。

●農林水産省 中川 一郎さん

私たちの暮らしは、大気と水、食料や木材、文化、災害被害の軽減等、生物多様性の恵みによって支えられています。

生物多様性を守るため、田園地域や里地里山の保全分野で様々な施策を行うとともに、消費者や地域住民が農家と一緒に田植え体験や生き物調査などを行う活動をサポートしています。森林保全分野では、消費者と一緒に植林、間伐、生物調査などを行う取組があります。水産分野では、干潟のゴミ拾いや藻場の保全などの活動を推進しています。生物が豊かな田んぼを保全するためには、お米を作る人、加工する人、購入して食べる人が皆関係者になるので、生物多様性に関する共通の価値を持つことが重要です。農林水産省では「生きものマークガイドブック」をウェブサイトで公開し、生物多様性に配慮した農林水産物の流通を後押ししています。また、最近は食品ロスの削減も重要な課題になっており、その削減に努めています。さらに、2020年までに宣言100万人を目標として「MY行動宣言」の署名運動を進めています。ぜひご協力をお願いします。

●環境省 鈴木 弘幸さん

循環型社会形成につながる消費者の行動に関連する施策の一つ目が、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」です。小型家電リサイクル法があまり知られておらず、多くの機器が燃えないゴミとして捨てられ埋め立てられています。PCや携帯電話には金や銀など有用な資源が800億円余り眠っているとされます。このプロジェクトをきっかけに多くの方に知ってもらいたいと思っています。

二つ目はPETボトルの国内でのリサイクル率をもっと高めていこうという動き、三つ目は「プラスチック資源循環戦略」策定の動きです。プラスチックは海洋ゴミが目目されていますが、リサイクル率をもっと高めていくためには技術革新とともに消費者の意識が変わっていかなくてはなりません。環境省ではプラスチック資源循環戦略を策定しつつあり、また、「プラスチック・スマート」キャンペーンを行っています。カギになるのは地域です。小さなエリアでの実践はつながりが見えやすく、話しやすいです。ローカルでSDGsを考え、地域循環共生圏を作る動きを政策で後押ししていきます。

<モデレーター 二村 睦子さんのまとめより>

最初に紹介いただいた各省の施策を踏まえ、後半ではキーとなるパートナーとは、またパートナーシップを進める上でのポイントは、といった観点からお話を頂きました。様々な重要なキーワードを頂いたかと思えます。例えば、まず身の回りの地域を大切に考えることが重要、パートナーシップでは互いの立場と意見を尊重することが大切、それぞれの学校で抱える事情が違うことに配慮することが必要などの指摘を頂きました。また、いかにビジネスにつなげるか、企業との連携が重要との指摘も頂きました。皆様のところでも、これらの情報を足掛かりにして、地域の活動にいかしていただければと思います。



出展組織・団体

●地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)登録団体

北海道羅臼町教育委員会/一般財団法人北海道国際交流センター(HIF)/公益財団法人キープ協会/筑波大学附属坂戸高等学校/立教大学ESD研究所/新宿ユネスコ協会/環境教育ネクストステップ研究会(市民活動グループ)/一般社団法人長野県環境保全協会/信州ESDコンソーシアム/豊橋ユネスコ協会/近畿ESDコンソーシアム/公益財団法人京都環境保全活動推進協会/津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ/公益財団法人水島地域環境再生財団/藤グリーン株式会社

社/岡山ESD推進協議会/大牟田市教育委員会/北九州ESD協議会/一般社団法人環不知火プランニング/NPO法人地球市民の会

●関係省庁

消費者庁/文部科学省/農林水産省/環境省

●全国規模のESD推進団体等

独立行政法人国立青少年教育振興機構/NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)/ESD日本ユース・コンファレンス/公益財団法人五井平和財団/日本ESD学会/独立行政法人国際協力機構

(JICA)窓口(広報室地球ひろば推進課)/独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)/公益社団法人日本ユネスコ協会連盟/NPO法人日本ジオパークネットワーク/認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)/地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)/公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター/認定NPO法人開発教育協会(DEAR)/公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)/国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)

●サステナブルスクール

(平成30年度ユネスコ活動費補助金グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業) 気仙沼市立瀨小学校/名古屋国際中学校・高等学校/NPO法人箕面こどもの森学園

●ESD活動支援センター(地方・全国)

地方ESD活動支援センター[北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州]/ESD活動支援センター

セッション4：分科会 地域ESD拠点：活動成果と可能性

5つの分科会では、分科会テーマに沿ったESD実践について、原則、地域ESD拠点から、プロセスや成果、課題等を含めて実践を発表いただきました。実践発表を基に、そのテーマの活動について理解を深め、参加者それぞれの活動のヒントを得ることの他に、ネットワークの契機を作っていただくこと、また、地域ESD拠点の登録につながることも期待されるセッションでした。ファシリテーターのリードの下、分科会ごとのユニークな会場アレンジや進行のなか、活発な意見交換が行われました。各コメントーターからは、各分科会の議論全体について有益なコメントをいただきました。

分科会1

学校と地域ですすめるESD

ファシリテーター

中澤 静男さん(奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授/
近畿ESDコンソーシアム 事務局長)

実践発表

水谷 瑞希さん(信州ESDコンソーシアム・信州大学教育
学部附属志賀自然教育研究施設 助教)
加藤 明子さん(福島工業高等専門学校グローバル推進
センター センター長)

コメントーター

原 理史さん(中部地方ESD活動支援センター)
進藤 由美さん(公益財団法人ユネスコ・アジア文化
センター(ACCU) 国際教育交流部長)

●水谷 瑞希さん

ユネスコエコパークにおけるESD

—志賀高原ユネスコエコパークの事例から—

志賀高原ユネスコエコパークでは、世界級の自然資源や伝統社会といった地域資源を活かしたESDの普及・推進及び観光と結びつけた地域の活性が行われています。志賀高原観光協会・ガイド組合は、ESDの視点を持った環境学習プログラムを提供しており、多くの学校に利用されています。山ノ内町と高山村の全ての小中学校がユネスコスクールに加盟し、ESDの視点を持った学びを実践しています。信州大学の志賀自然教育園での教員志望の学生に対する自然教育や、市民を対象としたユネスコエコパークセミナーも行われています。

ESDは、自然と人間社会の共生の実践を通して持続可能な発展を目指すユネスコエコパークの理念や、保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援という3つの機能を実現する駆動因であり、ユネスコエコパークはESDにとっての良きフィールドです。

信州ESDコンソーシアムが形成され、事業化されることでESD推進活動に教育機関や地域に根差した多様な主体が参画するプラットフォームを作ることができました。

●加藤 明子さん

学生主体の地域を巻き込んだESD活動事例紹介

福島工業高等専門学校(福島高専)は、2017年度に文部科学省のESD重点校形成事業「サステナブルスクール」の採択を受け、学校としてESDへの取組を開始しました。ワークショップ等を行ううち、学生の関心が高まり、女子学生有志が

自発的に米ガール(マイガール)というプロジェクトを立ち上げました。減少しつつある米食に対する問題意識から始まり、学生自身が身近な地産地消について考え、SNSを活用した地域への情報発信も行っています。地域のレストランと連携したメニューの開発、米粉を使用したアレルギー対応のレシピ作成、留学生に日本の米の魅力を伝えるための料理体験、国際会議への出席やNPO法人が運営する子ども食堂との協力など、活動の幅を広げています。学生の横のつながりや、子どもや地域社会、外国人、地元企業など、かなり広範なネットワークが形成されつつあります。

学生たちの主体的な活動が教員の意識変革を促していると思います。

意見交換とコメント

ステージと客席に分かれたホールが会場であったため、ファシリテーターの中澤さんの提案で、立ち話形式でワールドカフェ風のグループ対話を繰り返し、自らの学びを発表する工夫がなされました。

コメントーターの進藤さんからは、発信の重要性や世代を超えた学びの在り方についてのコメント、原さんからは、原体験・活動を共有することの大切さを再認識したというコメントがありました。



分科会2

自然災害に備える人づくり

ファシリテーター

松原 裕樹さん(NPO法人ひろしまNPOセンター 事務局長/
中国地方ESD活動支援センター)

実践発表

前田 眞さん(NPO法人えひめリソースセンター 2018年7月
豪雨災害支援南予担当/愛媛大学社会連携推進機構 教授(地域連携コーディネーター))
大野 覚さん(認定NPO法人茨城NPOセンター・commons
事務局長)

コメントーター

蒔田 尚典さん(近畿地方ESD活動支援センター)
佐々木 克敬さん(宮城県多賀城高等学校 校長)

●前田 眞さん

がんばってるけんね愛媛

—えひめ豪雨災害支援情報共有会議

(えひめ会議、牛鬼会議)から—

2018年7月7日に発生した豪雨災害からの復旧、復興に向けて、えひめリソースセンターはこれまでのネットワークをいかして「えひめ豪雨災害支援情報共有会議」に参画してきました。

刻々と変わる状況の中で、様々なレベルでの情報共有と先行例からの学びが必要だったため、県レベルでも地域でも頻りに会議が行われました。

解決すべき地域の生活課題は、災害時も平時も、実は変わりません。平時から、「地域社会が持っている様々な資源を地域の住民が共有し、地域をより魅力的なものにしていく、限られた資源を持ち寄りつなぎ合わせる」ことを促進する中間支援の拠点が重要だと思います。

そこでのコーディネーター、ファシリテーターには、理解力、共感性、発信力、持続力をはじめ、連携・協働していく様々な〇〇力が必要となります。

どの地域にも起こり得る災害に備えることは、地域にそのような人々を育てることであります。まずは、学びの場を作るところから始まるのだと思います。

●大野 覚さん

被災経験を次の災害に活かす、防災を通じたコミュニティづくり

3年前に茨城県常総市は水害に見舞われました。団体代表自身の被災経験や現在も続く被災者支援の経験をいかしつつ、次の災害に備えるための防災活動を通じたコミュニティづくりに取り組んでいます。防災は、地域の全ての人にとって重要ですが、取り残されがちな人もいます。だからこそ、防災は、NPOや地縁組織だけでなく、行政、企業、学校など、地域の様々な組織がつながるきっかけになります。

避難マップ、携帯電話を使った避難連絡の仕組みづくり、親子防災教室、自主防災組織づくりや福祉避難所についての研修などに、地域の様々な組織が関わり、活動することは、防災を通じて人が育つ仕組みづくりでもあります。「教育・人づくり」を意識してやってきたわけではありませんが、振り返るとESDだったという感じです。

私たちは、中間支援組織としてネットワークをもっていたことから、水害が起こった際に、多様な主体をつなぐことができました。私たちのような中間支援組織が地域ESD拠点に登録すると、発信できることが多くあるのではないかと思います。

意見交換とコメント

ファシリテーターの松原さんは、中国地方の豪雨災害の復旧、復興に、中間支援組織として深く関わっている経験を基に、平時→防災→復旧→復興の段



階に分けて、住民、支援者、コーディネーターの役割の変化を意識しながら、ワークショップをリードしました。

コメントーターの蒔田さんからは、地域ESD拠点同士の学び合い、連携や個性ある地域ESD拠点の活動の発信をESD活動支援センターが行うことができるのでは、というコメントがありました。佐々木さんからは、最重要なのは、被災者をできるだけ出さないことであり、そのための学びを学校でも社会教育でも行うことが必要だということ、また、被災経験をその他の地域に伝えることで災害に備えることができるというコメントがありました。

分科会3

地域と「国際」をつなぐESD

ファシリテーター

松本 一郎さん(島根大学大学院 教育学研究科
(教職大学院) 教授)

実践発表

池田 誠さん(一般財団法人 北海道国際交流センター
(HIF) 事務局長)
岩永 清邦さん(認定NPO法人 地球市民の会 事務局長/
公益財団法人 佐賀未来創造基金 副理事長)

コメントーター

井上 郡康さん(東北地方ESD活動支援センター 統括)
齋藤 克義さん(独立行政法人国際協力機構(JICA)広報室
地球ひろば推進課 課長)

●池田 誠さん

国際交流から、ダイバーシティ社会づくりへ

北海道国際交流センター(HIF)は、函館を拠点として、「多様性を共に支え合う社会づくり」をスローガンに活動しています。

1979年に開始した都会の留学生が農家にホームステイする草の根交流活動では、これまでに1万人を迎え入れてきました。その間には、円高、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件などの影響で、活動の存続を危ぶまれる段階もありましたが、地域への貢献を意識して事業を多様化してきました。留学生の受け入れからスタートした事業は、海外のボランティアと森林の手入れ、ごみ拾いなどの環境保全活動、外国人を含む防災への取組、次いで、若者就労支援、子ども食堂とフードバンク、ジェンダーの視点からの女性起業支援など、国際的な視点を加えて地域の課題に取り組んできました。

様々な社会課題を提起する季刊誌の発行を含め、地域を進めるSDGsのローカルアジェンダの推進に力を入れて、ダイバーシティ社会づくりを目指しています。

●岩永 清邦さん

地域の課題解決を国際交流から

1983年に設立された地球市民の会は、国際協力・国際交流を通じて、地域づくりを行う団体です。教育を中心に据え、ミャンマー、タイ、スリランカなどでの事業や、日中韓の大学生交流などを行っています。

日中韓の関係性が悪化した時期、それまでに行ってきた国際交流を手段として、意識改革を目指しました。将来の東アジアのリーダーを育てるために、中国・韓国から日本語を話せる大学生を招へいし、ホームステイ、企業訪問、大学を訪問しながら日本人学生と交流する、佐賀県との共催事業を行い、日本の学生による実行委員会を組織して実施しました。

また、佐賀空港利用飛行機便の搭乗率向上を目指す県、仕事の担い手不足から外国人採用に踏み出したい企業、留学生の増加につなげたい大学などの課題をつなぎました。

長く国際交流を行ってきましたが、昨今の国内の様々な「課題」と呼ばれるものの解決に向けて、国際交流の手法が一役買うことがわかりました。

意見交換とコメント

3つのグループに分かれた意見交換と発表の後、コメントの齋藤さんからは、国際的な取組に活用することで地元の取組の優れた点を確認できること、また、SDGsの浸透、グローバル化の進展によって国際と地域がつながりやすい状況が挙げられました。井上さんからは、自分たちでモノを考え、方向性を見出すことのできる人づくりであるESDの大切さに鑑み、国際的な取組に必要な専門性をパートナーシップでつないでいくことが求められるというコメントがありました。



ファシリテーターの松本さんは、「東京」を介さず地域が直接国外とつながる二つの事例を基に、外を見ることにより地域の魅力を含めて実情を再認識できる「国際」の視点が、think globally, act locallyで行動できる人づくりにつながるとコメントし、ワークショップを終了しました。

分科会4

ユースの関わり、ユースの巻き込み

ファシリテーター

青山 真弓さん(公益財団法人京都市環境保全活動推進協会)

実践発表

下枝 洋さん(名古屋ユネスコ協会 会長)
塚原 佑奈さん(北九州ESD協議会 サブコーディネーター
(北九州市立大学 地域創生学群3年))

コメント

伊藤 博隆さん(関東地方ESD活動支援センター)
高橋 尚也さん(日本科学未来館 科学コミュニケーター)

●下枝 洋さん

ユネスコスクールと共に取り組むESD

名古屋ユネスコ協会は公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が主催している事業「ユネスコESDパスポート」を活用

し、ユネスコスクールの生徒たちと共にESD活動を行っています。チャリティーコンサート、校舎屋上での養蜂、英語スピーチコンテスト、平和セミナー、出前授業などの活動は全てがリンクしています。活動に参加しているユネスコスクールや大学、地域の人たちのESDをコーディネートしようという思いは、地域ESD拠点登録によりさらに発揮しやすくなりました。会議や発表会等に参加することで横のつながりが強くなります。

名古屋ユネスコ協会の人数は現在80名前後で内25名が青年会員(35歳以下)です。総人数は変わっていませんが青年部はこの5年間で15名ほど増加しています。この青年部を卒業したメンバーの一部が大会員として活動を継続しています。

●塚原 佑奈さん

北九州ESD協議会におけるユースのESD実践について

北九州市立大学のESDプロモート実習は、あらゆる世代に向けたESD・SDGsの周知と実践活動の推進を目的に活動しており、北九州ESD協議会のサブコーディネーターとして、ステークホルダーをつなげる役割を担っています。月に一度開催している「ESDツキイチの集い」は、ESDの周知と参加者同士の交流を深めることを目的に、定期的かつ継続的な活動でESDに取り組む人々をつなぐ役割を担っています。「学び」と「楽しさ」が生まれるよう、対象の年齢や特徴等によってアプローチ方法を変え、多様なコラボレーションで、トイレトーパー芯エコ工作や、廃油キャンドル作り、ケーキデコレーション、ピースライト作り、ESDダンスなど様々な企画を実施しています。

地域ESD拠点のユースとして大人の方と一緒に活動して活動の幅が広がりました。また、多様な分野の方と協働することで生まれる力の大きさに気づけました。学生が活動することで、誰でもできるものだと思ってもらいやすく、注目を集めやすいということもあります。

意見交換とコメント

青山さんのファシリテーションで、実践の発表後は、「ユースの関わり、ユースの巻き込み」のための課題を共有し、興味のあるテーマごとに集まったグループで、普段の活動へのヒントを持ち帰れるよう話し合いを行いました。コメントの高橋さんからは、話し合いから出てきた様々な課題の解決のためにESD活動支援センターと地域ESD拠点ができることがあり得ること、伊藤さんからは、「いかにつながるか」というところで、皆さんとネットワークを広げたいとコメントがありました。



分科会5

体験活動を提供する施設のESD

ファシリテーター

大崎 美佳さん(北海道地方ESD活動支援センター/環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO 北海道))

実践発表

鳥屋尾 健さん(公益財団法人キープ協会環境教育事業部 事業部長/山梨県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長)
是安 聡一郎さん(国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職)

コメント

大本 晋也さん(独立行政法人 国立青少年教育振興機構 理事/国立淡路青少年交流の家 所長)
柴尾 智子さん(ESD活動支援センター 次長)

●鳥屋尾 健さん

つなぐ場としての地域ESD拠点-(公財)キープ協会の事例

キープ協会の名称は、清里・教育・実験・計画の英語頭文字を組み合わせたもので、1956年からの長い活動の歴史を持っています。全ての事業、空間、活動が「教育的」であることを意識してきました。

地域ESD拠点の果たすべき役割は人と人を「つなぐ場」にあるのでは、という視点で見ると、「山梨環境教育ミーティング」と「森の学童」がヒントを与えてくれます。どちらの例も、当該テーマの実践者・団体が集い、情報共有することで、互いの強みや、今後やりたいことが分かることで、展望やアクションが生まれます。マイクロプラスチック削減への連携はその一例です。

体験の場を提供できる施設には、宿泊施設を含めハードがあり、ソフトの蓄積があり、点と点をつなぐ場としてポテンシャルが高いと思います。場所があることに加え、人・情報、ネットワーク、アイデア、ノウハウ、ツール、共感や融通が利きやすいところなどを使って、「つなぐ場」としての認知度を高める必要があると思います。

●是安 聡一郎さん

2050年の北海道を支える学びの場づくりに向けて

独立行政法人国立青少年教育振興機構には、大雪青少年交流の家を含む全国28の施設があり、そこでは、「体験活動

を通した青少年の自立」を目指し、施設利用者や主催事業参加者に対し、感性豊かな心、様々な課題にチャレンジする意欲と能力など、「社会を生き抜く力」の育成に必要な自然体験、集団宿泊活動など、多様な体験活動の機会を提供しています。宿泊して行う体験は、地域の自然資源から、産業まで、参加者に新たな発見を提供できます。

十勝ジオパーク推進協議会との連携、富良野自然塾と旭山動物園と体験活動を「アROUND大雪」でつなぐ活動、新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」や、何を学ぶかから何が出来るようになるかへの重点の変化を意識した様々な体験活動の開発などが新しい動きです。

青少年交流の家の活動はESDの理念の実現につながると考え、地域ESD拠点に登録したことが、活動の狙いをより一層意識した企画、指導、運営につながっています。

その後大本さんより、全国の交流の家・自然の家の活動例から、地域で「教育」に情熱をもつ人・団体を含む地域資源をいかして子どもの体験を豊かにしていく活動と、それを通じてどう「学び」につなげているのか、ご紹介いただきました。

意見交換とコメント

ファシリテーターの大崎さんを中心に、本物の体験・非日常体験を提供できる施設の利点をいかして、点と点をつなぎ、異なる主体の「連携」によって新しい価値を作っていくための工夫や、地域で組織間のネットワークを維持発展していく際の課題について意見交換をしました。コメントの大本さんからは、各主体がフラットな関係で、ヘルプメッセージをはっきり出しながら、具体的な連携の仕方を探ることが重要との助言がありました。柴尾さんは、ESD実践をより良くするための活動チェックポイントの例を提示し、地域ESD拠点、ESD活動支援センターの連携強化を呼びかけました。



セッション5：全体総括



のコメントを頂き、その後、フォーラム全体を振り返りながら、総括コメントを頂きました。

セッション5では、5つの分科会ファシリテーターからの報告で成果を共有した後、会場からのコメントを頂き、その後、フォーラム全体を振り返りながら、総括コメントを頂きました。

モデレーター

安田 昌則さん(大牟田市教育委員会 教育長)

分科会成果報告

各分科会代表(ファシリテーター)による発表

総括コメント

竹内 よし子さん(四国地方ESD活動支援センター 統括/NPO法人えひめグローバルネットワーク 代表理事)
及川 幸彦さん(東京大学海洋ライアンス海洋教育促進研究センター 主幹研究員/日本ユネスコ国内委員会 委員)

分科会ファシリテーターからの成果共有

各分科会のファシリテーターから、分科会の様子や、意見交換の中から得られた地域ESD拠点についての気づきが共有されました。(以下は例)

- ・地域ESD拠点の登録には、信頼感の向上、組織のミッション再検討の機会などの利点がある。
- ・地域ESD拠点は、地域の資源(ヒト、組織・団体、自然環境、産業など)の点と点をつなぐことができる。
- ・地域の多様な主体それぞれが抱える課題に対し耳を傾け、その対処法や取り組み方についてコーディネートする役割を担える地域ESD拠点もあるのではないかと。
- ・ESDの認知度、地域ESD拠点の認知度の更なる向上が必要。

会場からのコメントより

分科会成果発表後に、会場からのコメントを頂きました。いくつかのコメントを紹介します。

- ・地域ESD拠点に教育委員会として登録しており、多くの主体との協働を行ってきましたが、このフォーラムでネットワークの在り方について新たに多くを学びました。
- ・今回多くの学びがあり、ようやくESDについて腑に落ちました。協力団体として、今後もジェンダーの問題を中心に連携していきたいと思えます。
- ・ESDを進める際、時間軸を重視すること、教員が異動しても継続する学校の中だけではない地域ぐるみの活動を重視することが大切だと思います。さらに、自分たちの活動が世界のESDの中でどのように位置づけられるかを意識することも重要だと思います。

総括コメント

●竹内 よし子さん 総括コメント

2日間の全国フォーラムの個別セッションで、多くの学びがありました。特に心に残ったこととして、「市民が市民に伝える」ことの大切さ、ESDの中で置き去りにされがちな「経済」あるいは資金確保の大切さ、コミュニケーションの大切さ、「痛み分けではなくうまみ分けを」などがあります。また、地方にいと省庁の話や直接聞ける機会が少ないので、省庁横断でフォー

カス当てたテーマでの議論は、とても有意義でした。各省庁にはたくさんのESD関連施策があるので、それらについて知る機会が得られるといいと思います。

私は、これまで15年間、ESDに取り組んできましたが、ようやく点と点のESDの取組の共有が進んだ状態になったとの感慨があります。毎年開催される全国フォーラムの意義は、地域ESD拠点を含む日本全国のステークホルダーをつなぎ、地域が異なっても、互いに学び合い、情報共有し、相互参照ができる点です。

国レベルの情報の提供や、地域のステークホルダー同士の学びのつなぎ役が、地方センターです。地方センターを、皆様の身近なつなぎ役としてぜひ活用していただくようお願いいたします。

●及川 幸彦さん 総括コメント

全国フォーラムも3回目を迎え、より多くの教員の参加が望まれますが、多様なセクターからの参加も得られ、ESD推進ネットワークが着実に進展・拡大していることが分かります。

SDGsと共に今回の全国フォーラムがハイライトした地域ESD拠点という観点から総括させていただきます。

ESD推進ネットワークの地域ESD拠点が必要とされる意義の一つは、このESD推進ネットワーク形成とESD活動支援センター(全国・地方)の整備・運用が、文部科学省と環境省の共同によるものであるという点です。「E(教育、人づくり)」と「SD(持続可能な社会づくり)」が融合することがESD推進ネットワークの目的といえるでしょう。第二の意義は、国連ESDの10年の経験を踏まえ、ESDの地域差、濃淡を埋めていくことです。

その文脈で地域ESD拠点を考えるに当たって、四つの重要なポイントがあります。

1. 地域資源を生かすアプローチ：地域にある様々な地域資源を活用する。世界遺産、ユネスコエコパーク、ジオパーク、世界農業遺産などをもつ地域ならなおさら
2. 地域課題に向き合うこと：高齢化、防災など、それぞれの地域が抱える課題を明確に認識することがESDの基本的



なステップ

3. 既存の事業・ネットワークの活用：ゼロからの出発ではなく、既存の取組をいかす。例として、ESDコンソーシアム、ユネスコスクール(現在約1,100校)、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク、環境省関連のESD事業主体やネットワークなど
 4. 地域ESD拠点の強みをいかした活動と連携：社会教育施設、地球温暖化防止活動推進センター、教育委員会、大学、企業など、地域ESD拠点に登録する団体のそれぞれの強みをいかした拠点としての活躍
- 最終的には、拠点同士がつながることにより、多重的なネットワークが形成されればと思います。

<モデレーター 安田 昌則さんのまとめより>



このフォーラムでたくさん学ぶことができました。ESDは時をつなぎ、人をつなぎ、心をつなぐことと感じます。教育哲学者の林竹二先生の言葉に「学んだことの証しは、ただ一つで、何かがかわることである」があります。改めてこの言葉を心に刻み大牟田の教育現場に戻りたいと思います。

閉会挨拶より

●大本 晋也さん 独立行政法人国立青少年教育振興機構理事/国立淡路青少年交流の家 所長

高校社会科教員を長年続けていて学力優秀な教え子が世の中に希望を持っていない状況に混乱していた、ちょうどその頃ESDに出会いました。社会科の公民を教える中で、憲法第13条の「個人の尊厳と幸福追求権」を強調してきましたが、そのような幸福の実現は、一人ひとりにかかっている、また、様々なステークホルダーの協働により生まれるものと確信しています。国立青少年教育振興機構の各施設は、体験活動を通じて子どもたちの豊かな学びの場を創造していく所です。今後とも皆様と手と手を取り合って子どもたちに豊かで将来に夢を持てる持続可能な社会を残していきたいと思えます。

地域ESD拠点特別セッション

地域ESD拠点同士、地域ESD拠点と地方センター、全国センターの顔合わせ及びESD推進ネットワークを担う主体としての情報共有と課題、解決策の検討のために、全国フォーラム2018の通常プログラム終了後に、地域ESD拠点特別セッションを開催し46名(地域ESD拠点登録18組織・団体含む)の参加がありました。



本セッションは、地域ESD拠点の任意の参加を得て、全国・地方の企画運営委員、地方センター、全国フォーラムの共催者である独立行政法人国立青少年教育振興機構、文部科学省、環境省、全国センターが参加して行われました。

河野環境省環境教育推進室長から、地域ESD拠点に登録し、ESDを広め、深めるために活動している諸氏に対して、感謝の意が示されました。また、ESDによるSDGsの達成、地域循環共生圏の実現のために、地域ESD拠点の役割に期待が大きいとのコメントを頂きました。

徳留文部科学省国際統括官付専門官から、ESD推進ネットワークは、文部科学省と環境省が協力して、民間と共同でESD推進のプラットフォームを作り、まず、学校と学校以外の地域の学びの間につながりを作っていくという趣旨で形成されたこと、地域ESD拠点がその主要な構成主体であることが確認されました。

続いて、ESD活動支援センターの鈴木副センター長から、今回初めて開催される特別セッションの目的の確認とともに「平成29年度地域ESD拠点アンケートの結果概要(暫定版)」について、説明がありました。

その後、参加者は、地域ESD拠点に登録して良かった点、今後の課題や展開のアイデアなどについて意見交換を行いました。

最後に、ESD活動支援センターの阿部センター長から、ますます明らかになる地域の課題に対応し、解決策を探っていくために、学び合いを続けましょうとコメントがありました。

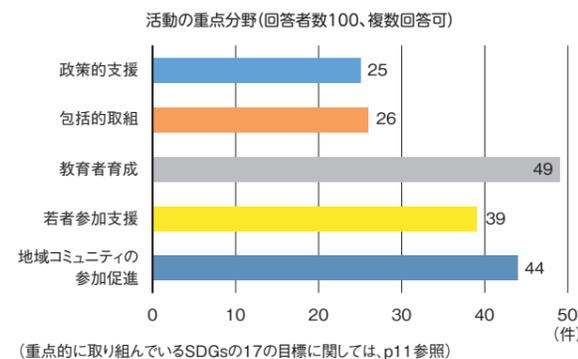
全国フォーラム2018アンケートより

参加者のべ人数 369人、参加者実数 256人 回答者数 101人 回収率 39.5%

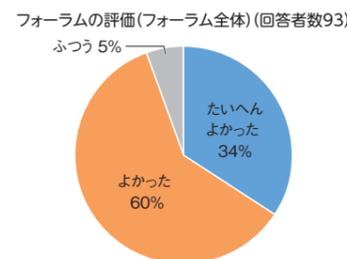
参加者のタイプ

NGO/NPO・公益法人が39%と多く、学校教育関係者(16%)、市民・住民・一般(10%)などが続いています。ESDへの取組年数については、取り組んでから3年未満という比較的新しい方(30%)と10年以上のベテラン(28%)の参加が多いです。

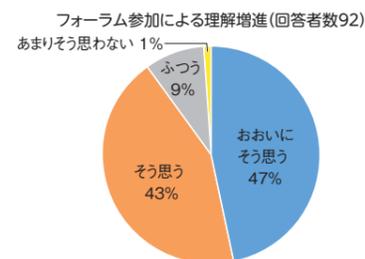
重点的に取り組んでいる課題



フォーラムの評価

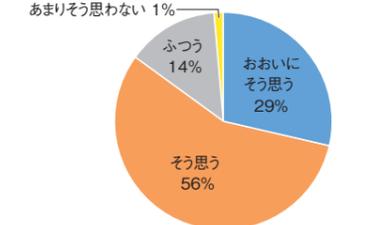


フォーラム参加の成果



具体的には「ESD推進ネットワーク、ESD活動支援センター(全国・地方)、又は地域ESD拠点に関する理解が進んだ」(55%)、「ESDに関する事例を学べた」(75%)、「SDGs等、ESDに関連する事項の理解が進んだ」(42%)など。

自らのネットワークを広げられた(回答者数87)



具体的には「ESDに関わる人たちとの交流ができた」(79%)、「ESDに関わる人たちに新たに知ることができた」(62%)、「ESDを広めるための情報・機会が得られた」(43%)など。

参加者の声から

参加者からはたくさんのご意見を頂きました。以下、一部ご紹介いたします。

- ・学校教育にもっと広めてほしい。
- ・情報提供や事例発表をたくさん行ってほしい。
- ・国際的な課題と地域の取組をつなぐこと(情報の提供等)を期待したい。
- ・全国の拠点で共通して取り組むテーマを設定するとよいと思えます。
- ・ネットワークの広がりのための研修等(特に地方での)をお願いします。
- ・フォーラムのセッションの動画などにアクセスできるとありがたいです。

消費者教育セミナー・国際セミナー

消費者教育セミナー 消費者の賢い選択に向けて 私たちができること 元ユニー株式会社顧問 百瀬則子氏講演会



2015年に国連で採択されたSDGsの中でも、目標12(つくる責任つかう責任)は、生産者と消費者をつなぐ我が国にとって重要な課題です。本講演会では、長年ユニーで生産消費の問題に取り組んできた百瀬則子さんを講師に招いて、ユニーの



15年間の取組を基に、持続可能な社会づくりのためにスーパーの果たす大切な役割と、消費者の賢い選択に向けて私たちができることについて、参加者と共に考えました。

講演概要

●SDGs達成のためにスーパーができること

消費者の一番近くで企業活動をしているスーパーは、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現した持続可能な社会の構築を目指しています。

SDGsの中でスーパーマーケットが特に関係が深いのは、飢餓をゼロに(SDGs2)、質の高い教育(SDGs4)、つくる責任つかう責任(SDGs12)、気候変動対策(SDGs13)、海の豊かさ(SDGs14)、陸の豊かさ(SDGs15)、パートナーシップ(SDGs17)の7つのゴールで、「食品を廃棄しない」「地球に優しいお買い物で持続可能な社会を目指す!」こと、特に重要なのが「小売業は消費者と一緒にエコライフスタイルを推進する」ことです。

●廃棄物削減の取組

ユニーはすべての廃棄物を計量し、その削減に努めています。日本では、生産・製造・輸入されている食糧の約3分の1、3,000万トン近くが廃棄物となっています(2015年度)。食べられるのに捨てられている「食品ロス」はそのうち600万トン以上あります。ユニーは、食品廃棄物の減量化、リサイクルのために廃棄量に応じて料金を取っています。また、食品廃棄物を減らすためにリサイクルループを始めました。廃棄物を減らすことはコスト削減になり、企業にも優しいです。そのような方策を企業は推進します。

●エシカル消費

私たちが選ぶことによって社会が変わる、という考えに基づく「エシカル消費」はますます重要になっています。しかしながら、フェアトレードに関するストーリーは、十分に日本で理解されているとは言えません。例えば、環境保全に配慮し、児童労働がない状況で生産されたカカオ豆から作るチョコレートの購入に積極的な消費者が育つことが、生産地の環境と子

どもの人権を守ることにつながるのです。

●学びの広がり

持続可能な社会を担う子どもたちに、お店探検や農業体験・自然探検などをとおして環境、社会貢献、食糧問題、命の大切さなどを学び、子どもたちが美しい自然の中で幸せに生きていくための「力」を育むことを目的に活動しています。店長を隊長とした店内探検はその一つです。この様子を従業員、テナントの人たち、買い物客たち、家族が見ることで、子どもたちの学びは、大きく広がります。

近年は、更に一歩進めて、市民が市民に教えられるように、地域の他の組織と連携して、「ショッピングが地球を救う」をテーマに、伝えることのできる市民インタープリター養成に参画しています。市民が市民に伝える「横から目線」は共感を呼び、「お買い物という選択で未来が変わる」というエシカル消費の視点を伝えることができます。

●コミュニティ・センターとしての役割

ユニーはまた、スーパーマーケットの整ったインフラを活用した学びの場を提供しています。災害時には、いつも行き慣れている場所だと心強いです。また、認知症の人のための接客などについての学びを行っています。スーパーマーケットだけでなく地域の人たちが皆で学ぶことが重要です。地域のコミュニティ・センターとしての役割をスーパーは果たすことができます。

開催概要

- 日時 2019年2月25日(月) 16:00~18:00
- 会場 成蹊大学10号館2階大会議室
- 主催 ESD活動支援センター
- 共催 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
- 参加者 20名

国際セミナー SDGs in Asia-Pacific: The challenge of ESD contributing to "no one left behind" ホセ・ロベルト・ゲバラ博士(通称「ロビーさん」)講演会



RMIT大学(オーストラリア)准教授、教育のためのグローバルキャンペーン(GCE)アジア太平洋地域選出理事、アジア南太平洋基礎・成人教育協議会(ASPBAE)前会長のロビーさんに、ご自身の幅広い経験を基に、SDGs達成、特に「誰も取り残さない」視点から、ESDを進めることについて、ご講演いただきました。現職教員を含む参加者と密度の濃い意見交換が行われました。

講演概要

●SDGs達成に向けたESD:二つのチャレンジ

ロビーさんは、SDGsを達成するためのESDの展開について、二つの大きな問いを提示しました。

一つ目は、ESDが記載されているSDGsターゲット4.7の前半部分、「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」ことの重さです。そのためには、学校教育、社会教育(コミュニティや職場教育など)を含む生涯学習としてのESDを、分野を超え、多様な主体が関わって進めていくチャレンジを乗り越えなければなりません。

二つ目は、「誰も取り残さない」という言葉の意味を、深く問い直すチャレンジです。差別、地理的要因、社会経済的立場、紛争や災害などから生じる脆弱性、ガバナンスにより、「取り残された」人々を課題の対象として捉えてよいのでしょうか。

●「学び」の多様性

生物学の専門家として、フィリピンの農民・漁民、少数民族の古老などと、環境保全や防災について取り組んできたロビーさんにとって、活動現場は、「学び」の場でもありました。例えば、生物学で当たり前とされる、生物と非生物の区別の概念は、万物に「いのち」が宿ると考える人たちにとっては無意味です。一方で、これまでは正しかった防災に関する土地に根づいている知恵は、森林伐採などが進行する現状では、必ずしも十分な対策方法に導いてくれません。「参加型」の学習活動は、知識伝達型の「暗記中心の勉強」に慣れた学習者には、学びとは捉えられないこともままあります。

●変革のための挑戦

「我々の世界を変革する」。これはSDGs17のゴールを含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のタイトルです。SDGsが標榜する「誰も取り残さない」を実現するためには「取り残され」たように見える対象を課題として捉えるのではなく、自らのESD実践そのものを、概念、方法、連携の仕組みを含めて、「変革」のために問い直すことが必要だと、ロビーさんは訴えました。

そして、「環境」、「経済」、「社会」という持続可能性の3本柱に、「文化」や「権力」を加えて考えてみることや変革のための力を得ることができる学びの在り方を考えること、また、持続可能性につながる政策を実現するための協力・連携に自信を持つことから始めようと呼びかけました。



開催概要

- 日時 2019年2月25日(月) 18:30~20:00
- 会場 成蹊大学10号館2階大会議室
- 主催 ESD活動支援センター
- 共催 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
- 参加者 11名

海外通信員レポート

国際情報の収集・発信の一環として、国外在住の様々な立場のESD関係者に、海外通信員レポートを執筆いただくことになりました。在住国・地域に見られる持続可能な社会を作るための学びの視点から、感じることや、所属機関のESD関連の事業などを紹介していただきます。海外通信員レポートは、ESD活動支援センターのウェブサイトのコンテンツ「海外の動き」に掲載しています。

インドからのレポート

●望月要子さん
(ユネスコMGIEP 政策プログラム長)
インド・シッキム州の小学校教科書にESDを



エクアドルからのレポート

●山下祐史さん
(多摩市立多摩第一小学校/青年海外協力隊
エクアドル派遣)
エクアドルにおける環境教育について



オーストラリアからのレポート

●野口扶美子さん
(RMIT大学)
Lentil as Anything-お金とモノの流れ、
人と人の関係を変える



シンガポールからのレポート

●池端弘久さん
(シンガポール日本人学校小学部
チャンギ校 校長)
探究科基礎とESD(チャンギ校の挑戦)



スウェーデンからのレポート

●浅野由子さん
(ウプサラ市私立マルマ・バック就学前学校/
日本女子大学 学術研究員)
スウェーデンにおける幼児期のSDおよびESD



タイからのレポート

●塚本直也さん
(アジア工科大学(AIT)アジア太平洋地域資源
センター センター長)
バンコクで思ったこと一顧在化するESDの
必要性



ドイツからのレポート

●菅原珠美さん
(四国地方ESD活動支援センター
非常勤スタッフ(ドイツ在住))
ドイツでの日常生活の中で気付くESD



フィリピンからのレポート

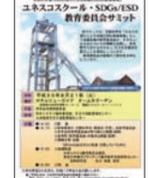
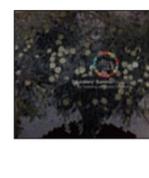
●浜中真希さん
(マニラ日本人学校 教諭)
フィリピンとマニラ日本人学校におけるESD
の概要



後援事業・協力事業

全国センターと地方センターは、地域ESD拠点、協力団体、ESDに取り組む多様な実践主体への支援の一環として、ESDの推進に資する行事や催事等への共催・後援・協力等を行っています。後援手続は地方センターとの連携のもと、全国センターで一元化して行っており、2018年4月～2019年2月末の間に、全国センターと地方センター合わせて64件の催事等に後援名義の使用承認を行いました。

1. 地域ESD拠点、協力団体が関わる行催事への後援・協力

<p>ユネスコ協会ESDパスポート</p>  <p>開催日 2018年4月1日(日)～2019年3月31日(日) 会場 全国30前後の地域 主催者 ☆公益社団法人日本ユネスコ協会連盟</p> <p style="text-align: right;">全国 後援</p>	<p>第36回開発教育全国研究集会</p>  <p>開催日 2018年8月4日(土)、5日(日) 会場 聖心女子大学 主催者 ☆認定NPO法人開発教育協会、聖心女子大学グローバル共生研究所</p> <p style="text-align: right;">全国 後援</p>	<p>第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会</p>  <p>開催日 2018年10月4日(木)～8日(月) 会場 様似町中央公民館を主会場とする周辺公共施設 主催者 第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会実行委員会、一般財団法人自治総合センター ◎共催: ☆NPO法人日本ジオパークネットワーク</p> <p style="text-align: right;">全国、北海道 後援 職員派遣</p>	<p>東山動植物園タイムカプセルプロジェクト2018 「おりがみコアラ2020チャレンジ」</p>  <p>開催日 2018年11月11日(日) 会場 東山動植物園 主催者 ☆国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)、名古屋市東山動植物園</p> <p style="text-align: right;">全国、中部 後援</p>
<p>エシカルフェスタ2018</p>  <p>開催日 2018年5月12日(土) 会場 聖心女子大学 主催者 ☆一般社団法人エシカル協会</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>	<p>日本ESD学会第1回大会</p>  <p>開催日 2018年8月18日(土)、19日(日) 会場 奈良教育大学 主催者 ☆日本ESD学会</p> <p style="text-align: right;">全国、近畿 後援 職員派遣</p>	<p>1. 第5回ESD日本ユース・コンファレンス 2. ESD日本ユース・プラットフォーム会合</p>  <p>開催日 1. 2018年10月13日(土)～14日(日) 2. 2019年2月17日(日) 会場 1. 邦和セミナープラザ 2. ビジョンセンター東京有楽町 主催者 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、☆公益財団法人五井平和財団</p> <p style="text-align: right;">全国、中部 後援</p>	<p>第12回日本ジオパークネットワーク全国研修会</p>  <p>開催日 2018年11月15日(木)～17日(土) 会場 福井県勝山市教育会館など 主催者 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会、☆NPO法人日本ジオパークネットワーク</p> <p style="text-align: right;">全国、中部 後援</p>
<p>持続可能な開発のための教育(ESD)とSDGs</p>  <p>開催日 2018年5月26日(土) 会場 男女共同参画推進センター(ウィズ新宿) 主催者 ★新宿ユネスコ協会、新宿区子ども家庭部男女共同参画課</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>	<p>ユネスコスクール・SDGs/ESD教育委員会サミット</p>  <p>開催日 2018年8月21日(火) 会場 ホテルニューガイア オームタガーデン 主催者 ★大牟田市教育委員会</p> <p style="text-align: right;">全国、九州 後援 職員派遣</p>	<p>第5回ユネスコスクール・ESDパスポート研修会 未来につなぐ「生きる力」</p>  <p>開催日 2018年10月30日(火) 会場 新宿区立西戸山小学校 主催者 ★新宿ユネスコ協会、☆公益社団法人日本ユネスコ協会連盟</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>	<p>清里ミーティング2018</p>  <p>開催日 2018年11月16日(金)～18日(日) 会場 公益財団法人キープ協会清里寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター 主催者 ☆公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF) ◎現地事務局: ★公益財団法人キープ協会</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>
<p>全国版ESDティーチャープログラム</p>  <p>開催日 2018年6月2日(土)～12月26日(水)に計15回開催 会場 羅臼、仙台、東京、奈良、長崎の各地 主催者 ★近畿ESDコンソーシアム、奈良教育大学ESD-SDGsコンソーシアム、(仙台会場のみ)みやぎESD研究会 ◎共催: (羅臼会場のみ)★北海道教育大学釧路校ESD推進センター、(東京会場のみ)☆公益財団法人五井平和財団</p> <p style="text-align: right;">全国、北海道、東北、関東、近畿、九州 後援</p>	<p>Regional Workshop on Enhancing Engagement for Education for Sustainable Development (ESD) towards achieving Sustainable Development Goals (SDGs)</p>  <p>開催日 2018年9月10日(月)～14日(金) 会場 岡山大学 主催者 岡山大学、ユネスコ、岡山市、★岡山ESD推進協議会、☆公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター</p> <p style="text-align: right;">全国、中国 後援 職員派遣</p>	<p>第7回北海道ESD・ユネスコスクール研修会</p>  <p>開催日 2018年11月3日(土) 会場 北海道教育大学札幌駅前サテライト 主催者 ★北海道教育大学釧路校ESD推進センター、北海道ユネスコ連絡協議会</p> <p style="text-align: right;">北海道 後援</p>	<p>公益社団法人日本ユネスコ協会連盟青少年ユネスコ活動助成事業 [SDGsアクションフォーラム～多世代で協働する持続可能な社会づくり～]</p>  <p>開催日 2018年11月24日(土) 会場 新宿区立新宿消費生活センター分館 主催者 ★新宿ユネスコ協会</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>
<p>近畿ESDコンソーシアム・大阪府ユネスコ連絡協議会合同セミナー</p>  <p>開催日 2018年7月29日(日) 会場 大阪市立総合生涯学習センター 主催者 ★近畿ESDコンソーシアム、大阪府ユネスコ連絡協議会</p> <p style="text-align: right;">全国、近畿 後援 職員派遣</p>	<p>IUCN70周年記念シンポジウム 「自然を基盤としたSDGsの達成～日本から世界に発信する新しい協働」</p>  <p>開催日 2018年10月2日(火) 会場 国連大学 主催者 ☆国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)、国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>	<p>えひめの環境学習シンポジウム</p>  <p>開催日 2018年11月10日(土) 会場 あかがねミュージアム 主催者 愛媛県 ◎共催: ★新居浜市教育委員会</p> <p style="text-align: right;">四国 後援</p>	<p>Educators' Summit for SDGs 4.7 2018 -For fostering our Global Citizenship-</p>  <p>開催日 2018年11月25日(日) 会場 聖心女子大学 主催者 ☆一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)</p> <p style="text-align: right;">全国、関東 後援</p>
<p>若者主体の持続可能なコミュニティ開発ユースフォーラム</p>  <p>開催日 2018年11月10日(土)、11日(日) 会場 生涯学習センター「まなぼーと成増」 主催者 ☆公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター</p> <p style="text-align: right;">全国 後援</p>	<p>The Asia-Pacific Regional Meeting on Teacher Education for ESD: Towards Achieving the Sustainable Development Goals through Education</p>  <p>開催日 2018年11月27日(火)～29日(木) 会場 岡山大学 主催者 岡山大学、ユネスコ・バンコク事務所、ヨーク大学ユネスコチェア、岡山市、RCE岡山、☆公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター</p> <p style="text-align: right;">全国、中国 後援 職員派遣</p>		

主催者 共同主催の場合を含みます。 後援 「ESD活動支援センター」を「全国」、「〇〇地方ESD活動支援センター」を「〇〇」と略記しています。

協力 職員派遣 全国センターが協力、職員派遣したものです。 ★地域ESD拠点、☆協力団体、◎地域ESD拠点、協力団体の関わり等

第1回全国ESD自治体フォーラム



開催日 2018年11月28日(水)
会場 立教大学池袋キャンパス
主催者 ★立教大学ESD研究所、ESD地域創生研究センター、
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の
 形成に関する研究」

全国、関東 後援

平成30年度近畿ESDコンソーシアム成果発表会・実践交流会



開催日 2018年12月26日(水)～27日(木)
会場 奈良教育大学
主催者 ★近畿ESDコンソーシアム、
 奈良教育大学ESD-SDGsコンソーシアム

全国、近畿 後援

第50回全国小中学校環境教育研究大会(東京大会) 第54回東京都小中学校環境教育研究発表会



開催日 2018年11月30日(金)
会場 東京都府中市立武蔵台小学校
主催者 ☆全国小中学校環境教育研究会、
 東京都小中学校環境教育研究会

全国、関東 後援

平成30年度おおむた・みらい・ESD推進事業 「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」宣言記念式典 大牟田市「ユネスコスクール・ESD子どもサミット」



開催日 2019年1月12日(土)
会場 大牟田文化会館
主催者 ★大牟田市教育委員会

全国、九州 後援
職員派遣

第48回海洋教育フォーラムin秋田 豊かな海と暮らすために ～海に親しみ、海を知る・海と共に～



開催日 2018年12月1日(土)
会場 男鹿市民文化会館
主催者 ★一般社団法人あきた地球環境会議、国際教養大学アジア
 地域研究連携機構、男鹿市、男鹿市教育委員会、秋田県立
 男鹿海洋高校、日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会

東北 後援

信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会



開催日 2019年1月26日(土)、2月2日(土)
会場 信州大学松本キャンパスほか
主催者 ★信州ESDコンソーシアム

全国、中部 後援

第10回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会



開催日 2018年12月8日(土)
会場 横浜市立みなとみらい本町小学校
主催者 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会 ◎共催:☆NPO法人
 日本持続発展教育推進フォーラム、☆公益財団法人ユネスコ
 アジア文化センター、☆公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

全国、関東 後援
職員派遣

北九州ESDフォーラム



開催日 2019年2月9日(土)
会場 北九州市立商工貿易会館
主催者 北九州市、★北九州ESD協議会

全国、九州 後援

第6回公害資料館連携フォーラムin東京



開催日 2018年12月14日(金)～16日(日)
会場 法政大学多摩キャンパスほか
主催者 第6回公害資料館連携フォーラムin東京実行委員会 ◎実行
 委員会メンバー:☆公害資料館ネットワーク、☆公益財団法人
 水島地域環境再生財団、共催:☆一般社団法人日本環境教育
 学会、☆公益社団法人日本環境教育フォーラム

全国、関東 後援

岐阜県ユネスコ協会「第2回ESDパスポート体験発表会」



開催日 2019年2月24日(日)
会場 岐阜大学サテライトキャンパス
主催者 ★岐阜県ユネスコ協会
 ◎共催:☆公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

中部 後援

第2回 全国OV教員・教育研究シンポジウム



開催日 2018年12月23日(日)
会場 JICA関西
主催者 全国OV教員・教育研究会、
 独立行政法人国際協力機構(JICA)

全国、近畿 後援

全国ボランティアコーディネーター研究集会2019 JVCC2019京都



開催日 2019年3月2日(土)、3日(日)
会場 大谷大学
主催者 ☆認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター
 協会(JVCA)、全国ボランティアコーディネーター
 研究集会2019京都 実行委員会

全国、近畿 後援

ESD成蹊フォーラム2019



開催日 2019年4月7日(日)、4月21日(日)
会場 成蹊大学
主催者 学校法人成蹊学園 ◎担当部署:★成蹊学園サス
 テナビリティ教育研究センター

全国、関東 後援

世界一大きな授業



開催日 2019年4月13日(土)～6月30日(日)
会場 ・全国各地の小・中学校・高校・大学約600校
 ・議員会館(5月中旬)
主催者 ☆教育協力NGOネットワーク(JNNE)

全国 後援

第4回全国ユース環境活動発表大会(全国大会)



開催日 2019年2月10日(日)
会場 国連大学
主催者 全国ユース環境活動発表大会実行委員会(環境省
 /☆独立行政法人環境再生保全機構/国連大学
 サステナビリティ高等研究所)

協力
職員派遣

いはいまSDGsアート・フェスティバル ～美術館から発信するESD(持続可能な開発のための教育)～



開催日 2019年8月24日(土)～10月18日(金)
会場 新居浜市美術館(あかがねミュージアム)
主催者 いはいまSDGsアート・フェスティバル実行委員会
 ◎実行委員会メンバー:★新居浜市教育委員会

協力

サステナビリティ円卓会議

～ESDにおけるポストGAPに向けたユネスコ国際会議(コスタリカ)報告会～



開催日 2018年8月23日(木)
会場 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
主催者 ☆公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、
 一般社団法人環境パートナーシップ会議

協力
職員派遣

2. ESDの推進に資するその他の行催事への後援・協力

高丸山千年の森 森の成長を見守る活動

会場 徳島県高丸山千年の森 **主催者** 一般社団法人かみかつ里山倶楽部 環境教育部会

開催日 2018年4月7日(土)、5月26日(土)、7月27日(金)
 四国 後援

国際交流研究科 第4回公開講演会「SDGs(持続可能な開発目標)をめぐる内外の動向」

会場 目白大学新宿キャンパス **主催者** 目白大学大学院国際交流研究科

開催日 2018年7月14日(土)
 全国 後援 職員派遣

東京都ユネスコ連絡協議会ESD公開講座「SDGs達成に向けたESDの実践」

会場 男女共同参画推進センター(ウイズ新宿) **主催者** 東京都ユネスコ連絡協議会ESD研究会

開催日 2018年7月21日(土)
 全国、関東 後援 職員派遣

次世代エシカルフェス

会場 四国大学交流プラザ **主催者** 徳島県教育委員会

開催日 2018年7月21日(土)
 全国、四国 後援 職員派遣

環境エネルギー・ラボ2018inせたがや

会場 世田谷文化生活情報センター、三軒茶屋ふれあい広場 **主催者** 環境エネルギー・ラボ2018実行委員会、世田谷区

開催日 2018年7月21日(土)～22日(日)
 全国、関東 後援

エシカル消費自治体サミット(エシカルひと・まちサミット2018inシモノロ)

会場 シモノロ・パーマメント **主催者** 徳島県、とくしまエシカル消費推進会議

開催日 2018年7月22日(日)
 全国、四国 後援 職員派遣

みんなで学ぶ!「エシカル教室」

会場 イオンモール徳島 **主催者** 徳島県

開催日 2018年8月26日(日)
 全国、四国 後援

みんなで学ぶ!「エシカル教室」in広島～消費をとおして地域を元気にしよう～

会場 イオンモール広島祇園 **主催者** 広島県、徳島県

開催日 2018年11月3日(土)
 全国、中国 後援

あばれんぼキャンプ体験活動・教育アカデミー2018「SDGsのためのESDとは?」

会場 府中市市民活動センター プラッツ **主催者** NPO法人野外遊び喜び総合研究所

開催日 2018年11月3日(土)
 全国、関東 後援 職員派遣

香川ESDまつり

会場 「善通寺五岳の里」市民集いの丘公園 **主催者** 香川ESDまつり実行委員会

開催日 2018年11月11日(日)
 四国 後援

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群世界文化遺産登録1周年記念 第9回世界遺産学習全国サミットinむなかた

会場 宗像コリックス **主催者** 宗像市教育委員会、世界遺産学習連絡協議会、宗像市

開催日 2018年11月17日(土)
 全国、九州 後援 職員派遣

全国自然体験活動指導者集会 (全国キャラバン)

開催日 ①2019年2月15日(金)～17日(日) ②2019年1月17日(金)～19日(日) ③2018年11月30日(金)～12月2日(日) ④2018年12月14日(金)～16日(日)

⑤2018年12月6日(木)～8日(土) ⑥2019年1月11日(金)～13日(日) ⑦2018年11月22日(木)～24日(土)

会場 ①国立大雪青少年交流の家 ②国立岩手山青少年交流の家 ③国立信州高遠青少年自然の家 ④国立立山青少年自然の家

⑤国立淡路青少年交流の家 ⑥国立江田島青少年交流の家 ⑦国立阿蘇青少年交流の家

主催者 NPO法人自然体験活動推進協議会 全国、北海道、東北、中部、近畿、中国、九州 **後援** **職員派遣**

ユネスコスクール支援プロジェクト開始記念講演会「大学によるESDとユネスコスクール支援」

開催日 2018年11月23日(金)

会場 創価大学 **主催者** 創価大学ユネスコスクール支援プロジェクト 全国、関東 **後援**

第2回日本語スピーチコンテスト

開催日 2018年12月1日(土)

会場 港区立生涯学習センター(ばるーん) **主催者** 港ユネスコ協会 全国、関東 **後援**

地域創生×SDGsセミナー:地域の取組みが世界を変える～「産官学金民」のSDGs取組事例を中心に～

開催日 2018年12月5日(水)

会場 くまもと県民交流館パレア **主催者** ジェトロ熊本、ジェトロ・アジア経済研究所、独立行政法人国際協力機構(JICA)九州 九州 **後援**

(日本/ユネスコパートナーシップ事業)愛知県ユネスコスクール指導者研修会

開催日 2018年12月14日(金)

会場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) **主催者** 愛知教育大学 全国、中部 **後援** **職員派遣**

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～高校生のための国際交流・国際協力EXPO 2018～

開催日 2018年12月24日(月)

会場 大阪YMCA **主催者** NPO法人関西NGO協議会、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生のための国際交流・国際協力EXPO 2018 運営委員会 全国、近畿 **後援**

ユネスコ協会 ESDパスポート体験発表会

開催日 2018年12月24日(月)

会場 大阪YMCA **主催者** 大阪府ユネスコ連絡協議会 全国、近畿 **後援**

産学官民合同セミナー「市民協働のつどい」

開催日 2019年1月22日(火)

会場 桐生市保健福祉会館 **主催者** 桐生市、群馬県、きりゅう市民活動推進ネットワーク 関東 **後援**

新宿の環境学習応援団 第18回「まちの先生見本市」

開催日 2019年1月26日(土)

会場 新宿区立花園小学校 **主催者** NPO法人新宿環境活動ネット、新宿区 全国、関東 **後援**

地域創生×SDGsセミナーin長崎:地域の取組みが世界を変える～「産官学金民」のSDGs取組事例を中心に～

開催日 2019年2月13日(水)

会場 長崎県美術館 **主催者** 日本貿易振興機構(ジェトロ)長崎貿易情報センター、ジェトロ・アジア経済研究所、独立行政法人国際協力機構(JICA)九州 九州 **後援**

平成30年度県南広域振興局環境交流フォーラム～2030年の未来のために～

開催日 2019年2月14日(木)

会場 奥州市文化会館(Zホール) **主催者** 県南広域振興局保健福祉環境部 全国、東北 **後援**

2月例会 ～新時代の子育て～

開催日 2019年2月17日(日)

会場 BASE Q(東京ミッドタウン日比谷) **主催者** 公益社団法人東京青年会議所 全国、関東 **後援** **職員派遣**

大学SDGs ACTION! AWARDS 2019

開催日 2019年2月20日(水)

会場 有楽町朝日ホール **主催者** 朝日新聞社 全国、関東 **後援** **職員派遣**

持続可能な社会・なりわい・暮らし ささやまミーティング 第14回 エコネット近畿情報交流会

開催日 2019年2月22日(金)～23日(土)

会場 ユニピアささやま **主催者** NPO法人近畿環境市民活動相互支援センター(エコネット近畿)、一般財団法人セブン・イレブン記念財団 近畿 **後援**

地球温暖化防止のためのプログラム体験・報告会

開催日 2019年2月26日(火)

会場 日本教育会館 **主催者** 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 全国、関東 **後援** **職員派遣**

被災地の元気に貢献する、被災地・大阪間の高校生交流事業

開催日 2019年3月23日(土)～25日(月)

会場 大阪府立春日丘高校、大阪府立茨木高校、金光大阪高校 **主催者** がんばろう!つばさネットワーク、大阪府立北摂つばさ高等学校 全国、東北、近畿 **後援**

2019年英語パフォーマンス甲子園

開催日 2019年9月8日(日)

会場 DMG MORI やまと郡山城ホール **主催者** 英語パフォーマンス甲子園実行委員会 全国、近畿 **後援**

第7回イオンエコワングランプリ

開催日 2018年6月1日(金)～2019年3月31日(日)

会場 東京ビッグサイト(最終審査会) **主催者** 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ **協力**

メディア等掲載

ESD推進ネットワーク及びESD活動支援センター(全国・地方)に関する記事が次の新聞・情報誌等に掲載されました。

●『地球教室2018 応用・研究編』 2018年6月

「未来を変える力を育む持続可能な開発のための教育」
朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会

●日本経済新聞(夕刊) 2018年7月10日(火)

「国や国際機関も後押し」
日本経済新聞社

●日刊工業新聞(第2部) 2018年7月31日(火)

「ESD、未来、人材育てる」
日刊工業新聞社

●『ESD研究』vol.1 2018年8月

特別寄稿「ESD推進ネットワークの展開に向けて」
日本ESD学会

●『エネルギーと環境』 2018年8月23日(木)

「持続可能な開発のための教育が拡大、企業価値向上に」
(株)エネルギージャーナル社

●朝日新聞(朝刊) 2019年2月26日(火)

「未来につながる環境教育を」
朝日新聞社

地方センター連絡先

北海道地方 ESD活動支援センター

住所 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西5-11 大五ビル7階
TEL 011(596)0921 **E-mail** inf@hokkaido-esdcenter.jp
担当都道府県 北海道

東北地方 ESD活動支援センター

住所 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1階
TEL 022(393)9615 **E-mail** info@tohoku-esdcenter.jp
担当都道府県 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東地方 ESD活動支援センター

住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山地下1階
TEL 03(6427)7975 **E-mail** kanto@kanto-esdcenter.jp
担当都道府県 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、静岡

中部地方 ESD活動支援センター

住所 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4階
TEL 052(218)9073 **E-mail** office@chubuesdcenter.jp
担当都道府県 富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重

近畿地方 ESD活動支援センター

住所 〒540-6591 大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMM5階
TEL 06(6948)5866 **E-mail** office@kinki-esdcenter.jp
担当都道府県 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国地方 ESD活動支援センター

住所 〒730-0011 広島県広島市中区基町11-10 合人社広島紙屋町ビル5階
TEL 082(555)2278 **E-mail** cgesdc@chugoku-esdcenter.jp
担当都道府県 鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国地方 ESD活動支援センター

住所 〒760-0023 香川県高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館3階
TEL 087(823)7181 **E-mail** info@shikoku-esdcenter.jp
担当都道府県 徳島、香川、愛媛、高知

九州地方 ESD活動支援センター

住所 〒860-0806 熊本県熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2階
TEL 096(223)7422 **E-mail** contact@kyushu-esdcenter.jp
担当都道府県 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

全国センター連絡先

ESD活動支援センター Education for Sustainable Development

住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67
コスモス青山 地下1階
TEL 03(6427)9112 **FAX** 03(6427)9113
E-mail contact@esdcenter.jp
URL https://esdcenter.jp

<アクセス>



- 東京メトロ 銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」B2出口から徒歩約10分
- JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線「渋谷駅」東口(宮益坂口)から徒歩約12分
- 都営バス(渋88系統)「青山学院前」停留所から徒歩約2分
- ★ 青山通りから国連大学とオーバルビル間の道に入り、東京ウィメンズプラザの前のエスカレーターで地下1階までお越しください。

●全国センターの運営体制

センター長 阿部 治
副センター長 鈴木 克徳
次長 柴尾 智子
スタッフ 渡辺 五月
スタッフ 金沢 信幸
アルバイト 志村 真美

上席アドバイザー 及川 幸彦
(東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 主幹研究員/日本ユネスコ国内委員会 委員)

上席アドバイザー 百瀬 則子
(ワタミ株式会社 SDGs推進本部長)

ユース事業担当コーディネーター 村上 千里
(敬称略)

ESD活動支援センター(全国センター)は、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)が公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)と共同で運営しています。

印刷 株式会社サンエー印刷